

# デジタル上のマナー に関する調査

アンケート調査 (2021 年 6 月)



# 調査の概要



## 目的

生徒の学校内外のデジタル ライフにおける、ネットいじめやオンライン ハラスメント等のオンラインでの不適切行為の有無や、この問題に関する保護者や教育者の体験を確認する。GIGA スクール構想が、生徒、教師およびオンライン学習環境に与えた影響を評価する。

---



## 標本

インターネットを使用する生徒 (250 人)、保護者 (251 人) および教師 (250 人) の合計 751 人  
中学校または高校の生徒および教師  
中学校または高校に通う子供の保護者  
地方と都市のバランス、中学校と高校のバランス、および生徒と保護者の性別のバランスも考慮

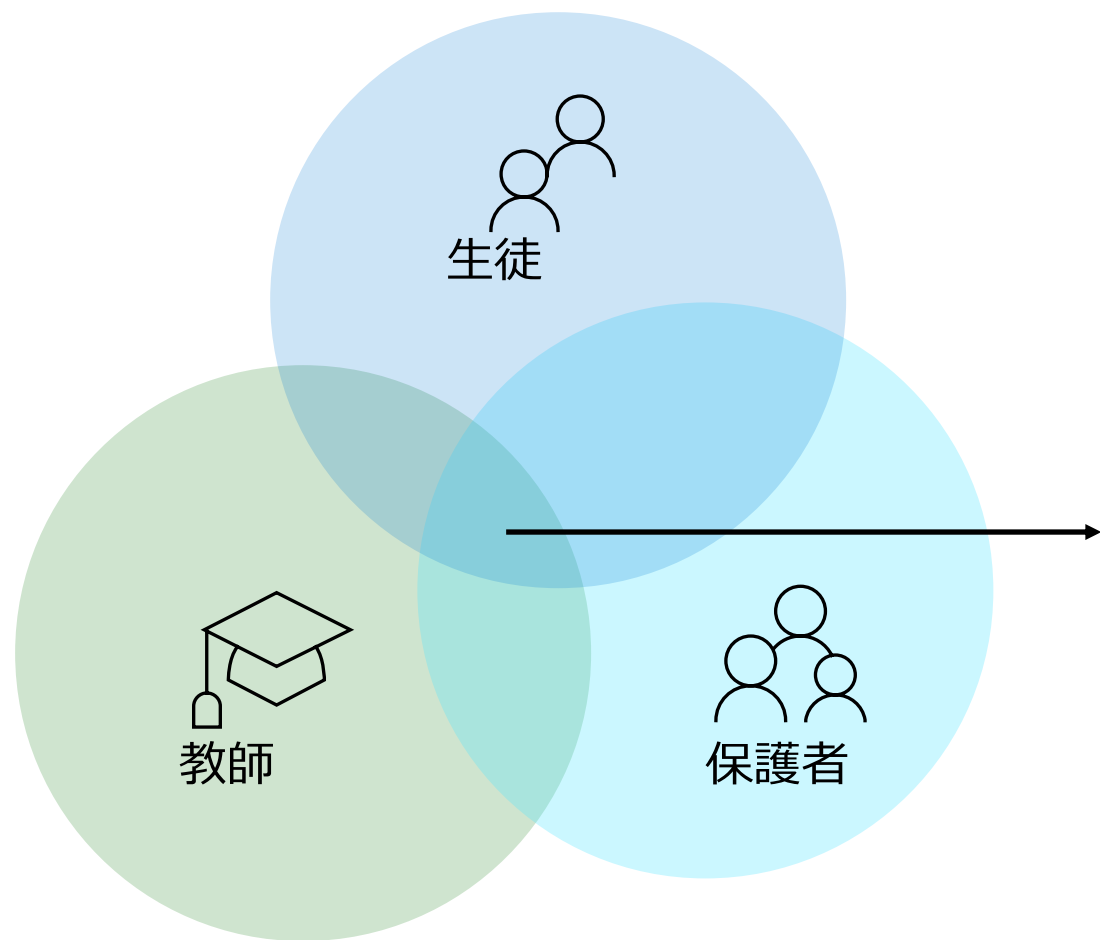
---



## 方法

デスクトップ PC およびモバイル機器対応の Web パネル式アンケート調査  
教師の標本は CATI (コンピューター支援型電話調査) による電話調査 / インタビューで補足  
アンケート実施期間: 2021 年 6 月 2~16 日  
平均所要時間: 10 分

# 複数の視点からオンライン ハラスメント / ネットいじめと eラーニングを評価



発生率、懸念事項および悪影響

子供のオンラインでの安全確保における保護者と教師の役割

学校側の対応と校則の効果

eラーニングの有無

eラーニングやオンラインでの安全確保に関するトレーニングと教育

## 主な所見

中高生の間でオンライン ハラスメントやネットいじめが問題である

最大の影響は鬱や気持ちの落ち込みである

保護者はオンライン ハラスメント / ネットいじめに対する第一の防衛線だが、この問題への対応能力に非常に不安を感じている

教師はオンラインでの安全を指導および支援できる絶好の立場にある

オンライン ハラスメント / ネットいじめ対応は、高校よりも中学校の方が進んでいる

ただし、教師は学校側のオンラインの生徒の安全確保能力を過信している可能性がある



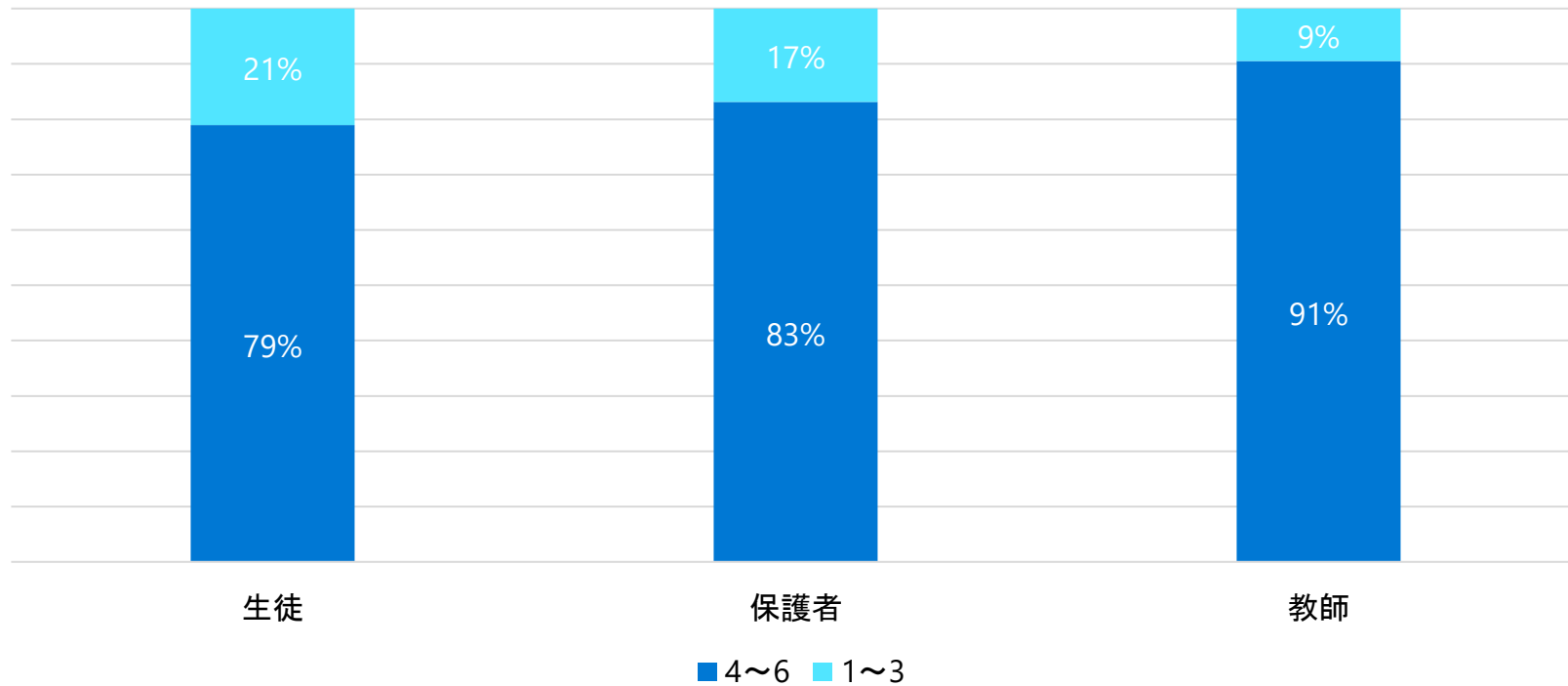
中高生の間でオンライン ハラスメント /  
ネットいじめが問題である



# 全対象者がオンライン ハラスメントやネットいじめが問題であると回答

## オンライン ハラスメント / ネットいじめは大きな問題か

集計ベース: 合計 751人、6 段階評価 (6 = 非常に重大な問題 ~ 1 = 問題ではない)

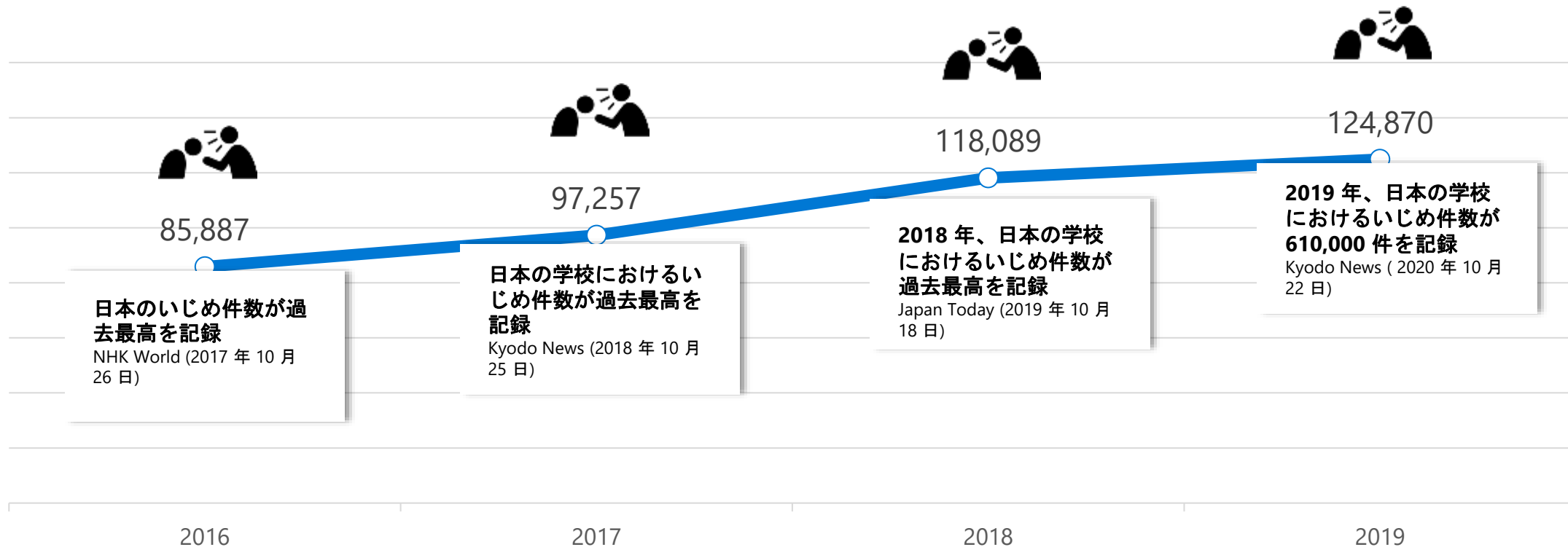


# 文部科学省のデータはオンライン ハラスメント / ネットいじめが増加していることを示している

2016年から2019年までに、中学校・高校におけるいじめの認知件数は45%増加

## 中学校・高校におけるいじめ認知件数

出典: 文部科学省

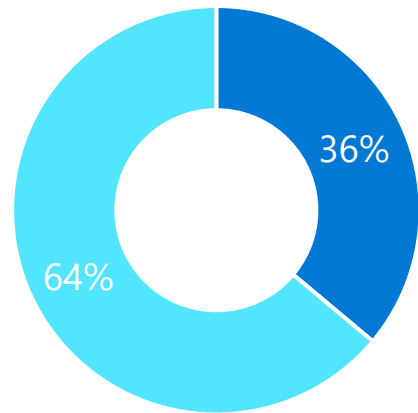


# 36% の回答者がオンラインで不愉快、意地悪または侮辱的な行為をされたと回答

このような行為は、生徒や保護者よりも教師からの報告数が遥かに多い

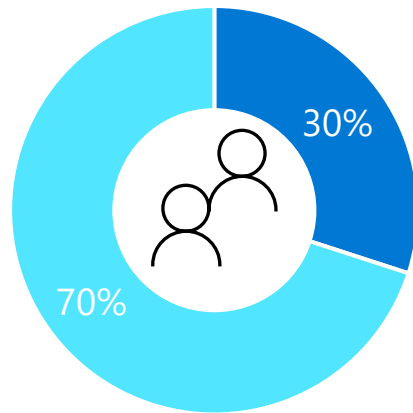
また、子供が受けた不適切行為に関する保護者からの報告数は、10代の子供自身からの報告数よりも大幅に少ない

合計  
集計ベース: 合計 751 人



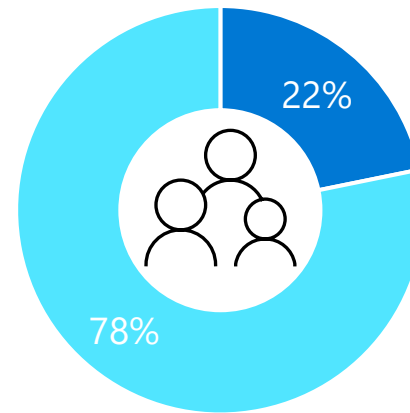
■ はい ■ いいえ

生徒  
集計ベース: 250 人



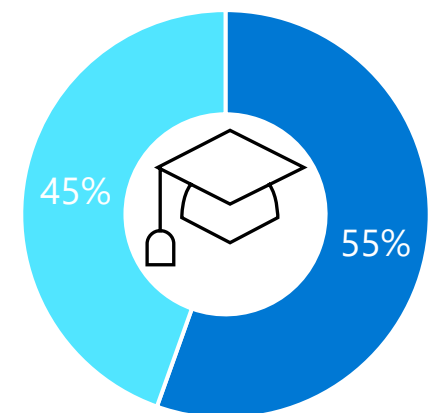
■ はい ■ いいえ

保護者  
集計ベース: 251 人



■ はい ■ いいえ

教師  
集計ベース: 250 人



■ はい ■ いいえ

Q.OS.2b: (生徒) オンラインで誰かから不愉快、意地悪、屈辱的または不適切な行為をされたことはありますか?  
(保護者) お子様オンラインで誰かから不愉快、意地悪、屈辱的または不適切な行為をされたことはありますか?  
(教師) 教え子がオンラインで誰かから不愉快、意地悪、屈辱的または不適切な行為をされたことはありますか?

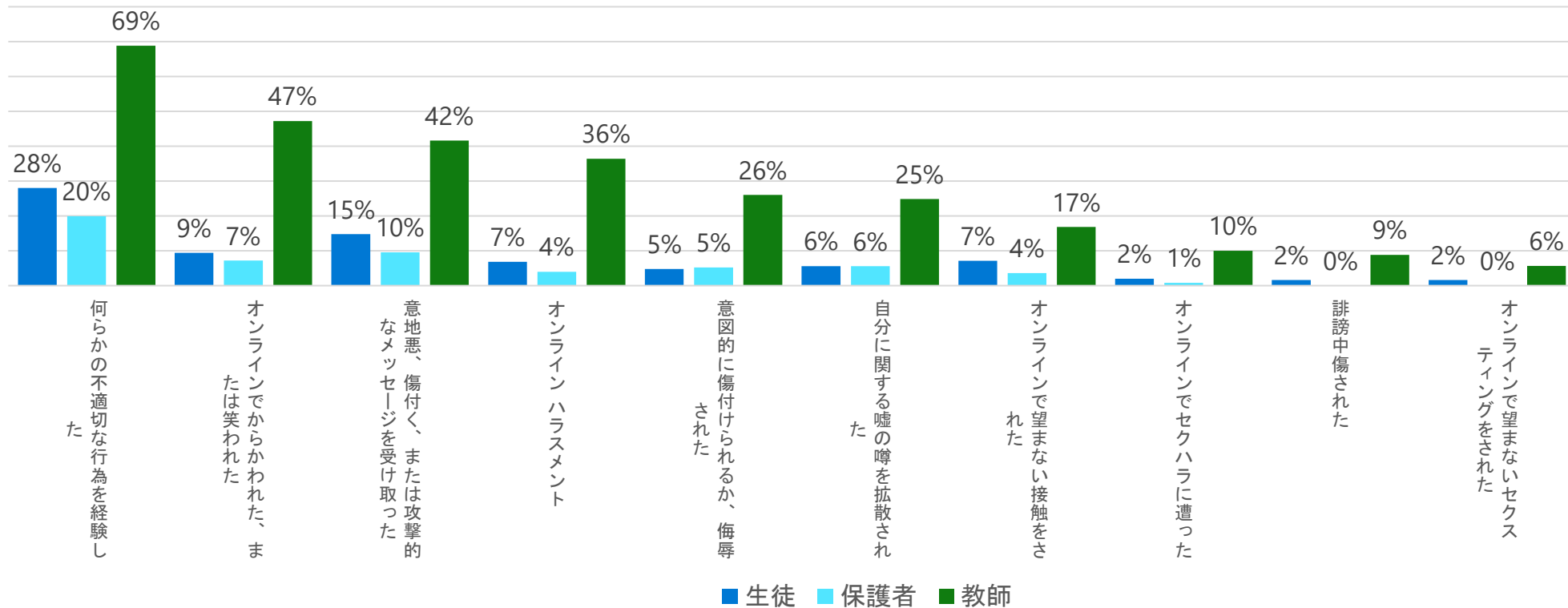


# 69% の教師が、教え子がオンラインで不適切な行為をされたことがあると回答

この質問でも、子供が受けた不適切行為に関する保護者からの報告数は、10代の子供自身からの報告数よりも少ない

## 一般的なオンライン ハラスメント / ネットいじめ

(教師からの報告が多い順)



低深刻度



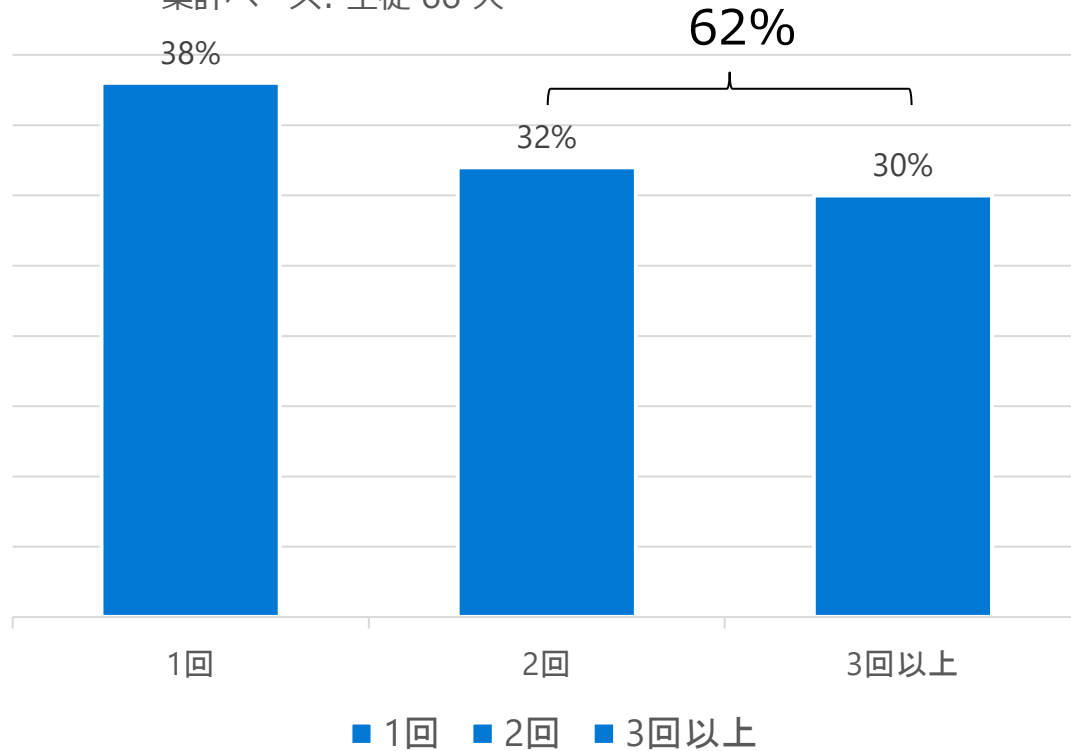
高深刻度

# 10代の62%がオンラインハラスメント/ネットいじめは複数回発生したと回答

79%のオンラインハラスメント/ネットいじめは1年以内に発生

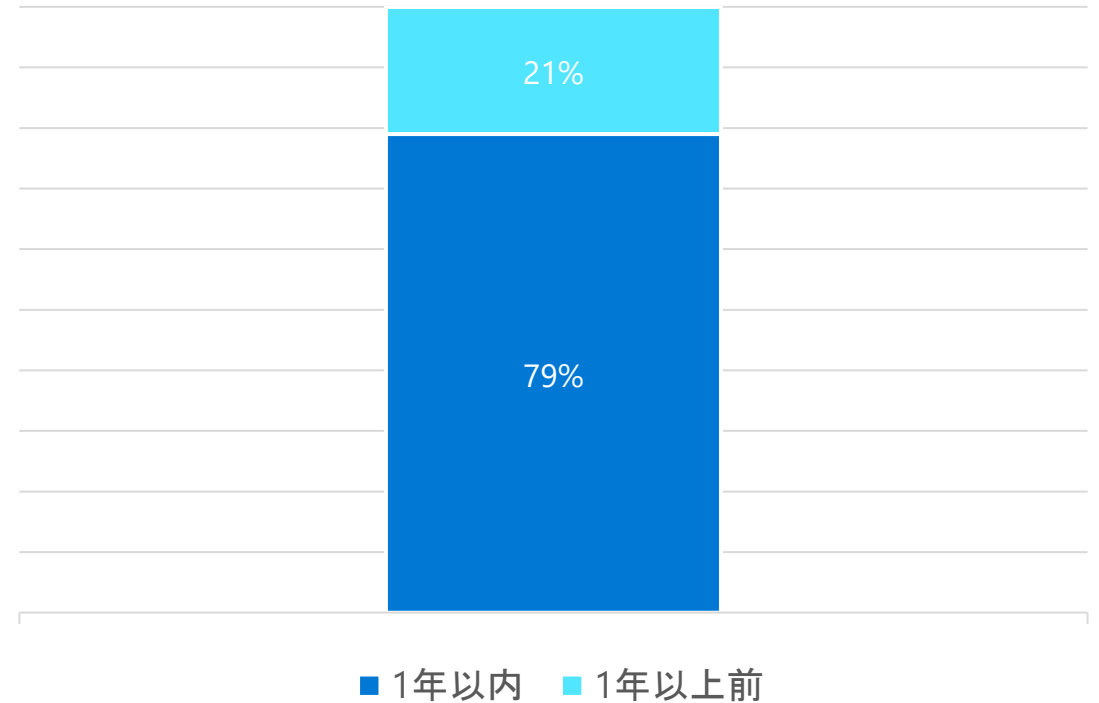
### オンラインハラスメント/ネットいじめの発生回数

集計ベース: 生徒66人



### 最後にオンラインハラスメント/ネットいじめが発生した時期

集計ベース: 生徒66人

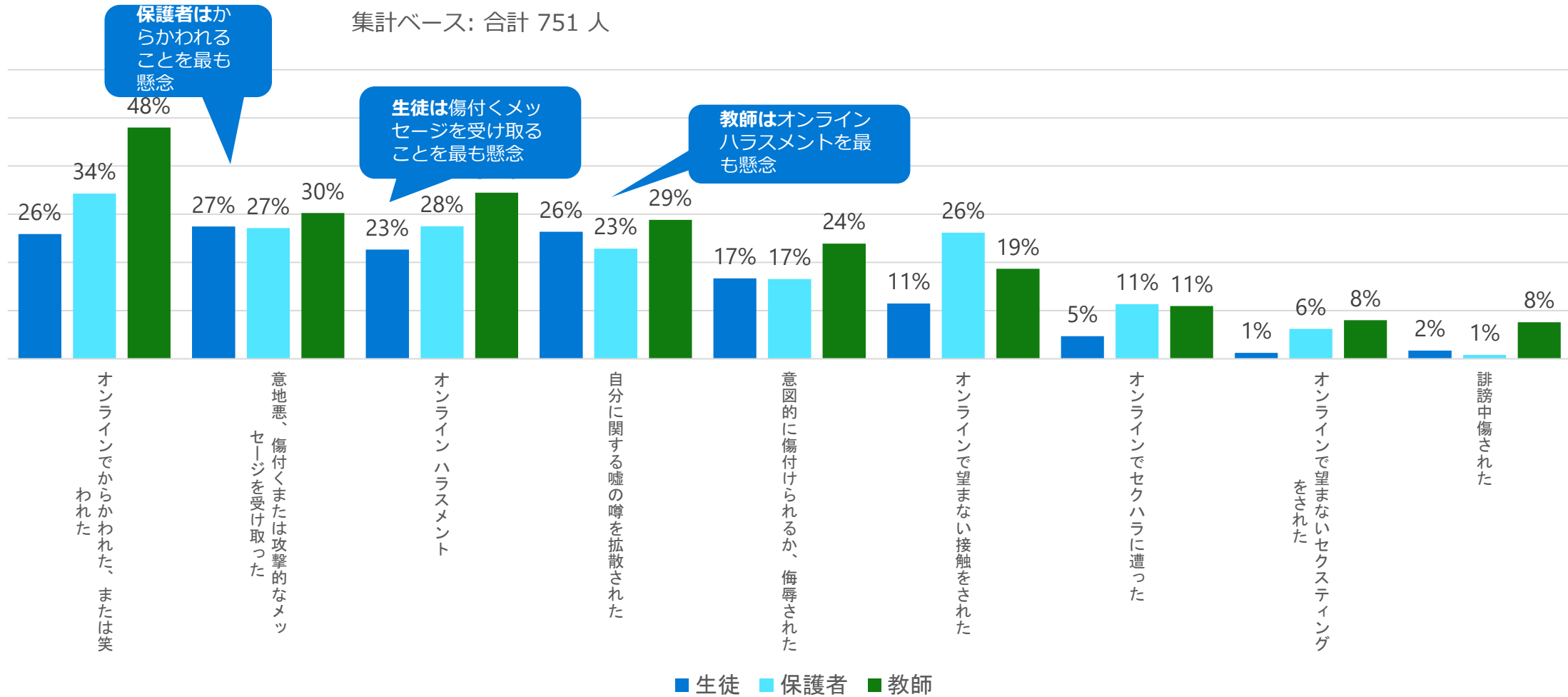


# オンライン ハラスメント / ネットいじめ関連の懸念は立場によって異なる

教師が最も懸念

最大の懸念: オンライン ハラスメント / ネットいじめのタイプ

集計ベース: 合計 751 人



低深刻度



高深刻度

オンラインハラスメント / ネットいじめの最も一般的な影響は、鬱や気持ちの落ち込みである

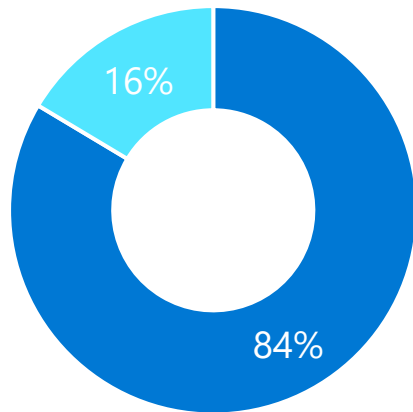


# 91% の教師がいずれかの教え子に悪影響があったと回答

約 10 人に 8 人の生徒が悪影響があったと回答

## 合計

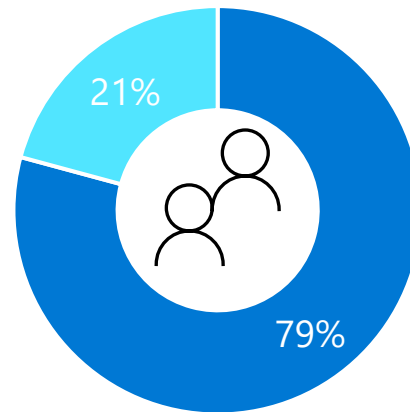
集計ベース: オンライン ハラスメント / ネットいじめ経験者  
339 人



■ はい ■ いいえ

## 生徒

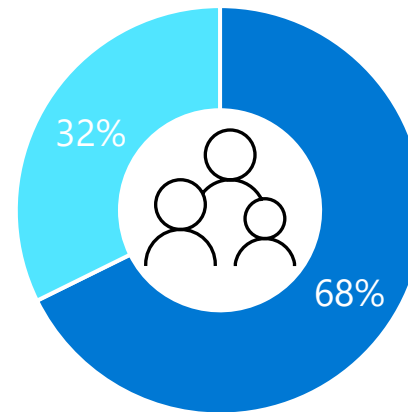
集計ベース: オンライン ハラスメント / ネットいじめ経験者  
84 人



■ はい ■ いいえ

## 保護者

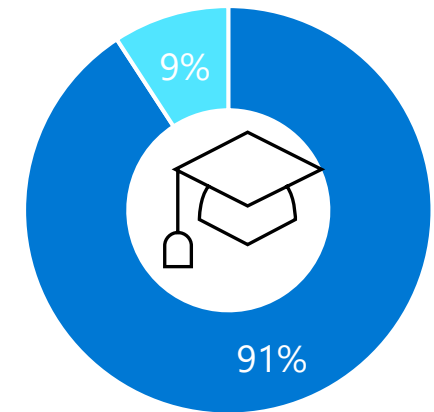
集計ベース: 子供のオンライン  
ハラスメント / ネットいじめ経験者  
65 人



■ はい ■ いいえ

## 教師

集計ベース: 生徒のオンライン  
ハラスメント / ネットいじめ経験者  
190 人



■ はい ■ いいえ

# オンライン ハラスメント / ネットいじめの最大の影響は鬱である

生徒は保護者や教師に事態を報告したがらず、生徒からの報告率が実際よりも低く抑えられている可能性がある

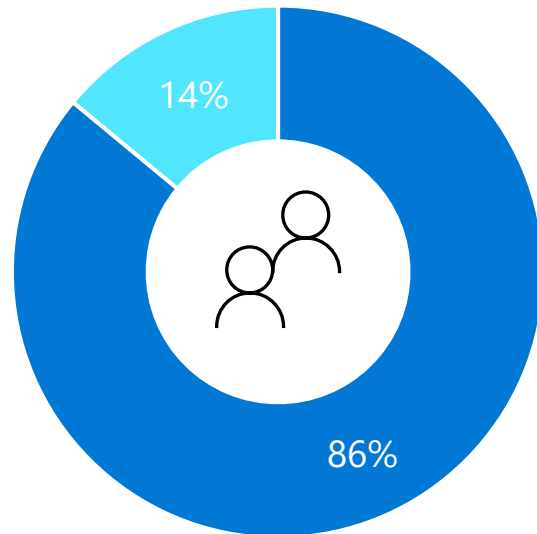
影響 (多い順)	合計	生徒	保護者	教師	差 (保護者 - 生徒)	差 (教師 - 生 徒)	差 (教師 - 保 護者)
鬱や気持ちの落ち込みを経験した	39%	24%	31%	48%	7%	<b>24%</b>	<b>17%</b>
生活上のストレスが増えた	32%	20%	16%	43%	-4%	<b>23%</b>	<b>27%</b>
自尊心が下がった	30%	27%	27%	33%	0%	6%	6%
孤立感および / または孤独感が増した	23%	13%	14%	30%	1%	<b>17%</b>	<b>16%</b>
オンライン上で人に対する信用が下がった	15%	18%	6%	17%	-12%	0%	12%
個人の評価に傷が付いた	14%	15%	11%	15%	-3%	1%	4%
恥をかいた	14%	16%	11%	14%	-5%	-2%	3%
学業に悪影響があった	14%	10%	3%	20%	-7%	9%	<b>16%</b>
オフライン上で人に対する信用が下がった	11%	6%	8%	14%	2%	8%	6%
恐怖または脅威を感じた	11%	6%	4%	15%	-2%	9%	11%
SNS、ブログおよびフォーラムの使用意欲が下がった	8%	12%	6%	7%	-7%	-5%	1%

注意: **太字**は、生徒が影響を適切に報告していない可能性を示す

# 大多数の生徒はオンライン ハラスメント / ネットいじめをされた後に行動した

86% の生徒が行動した

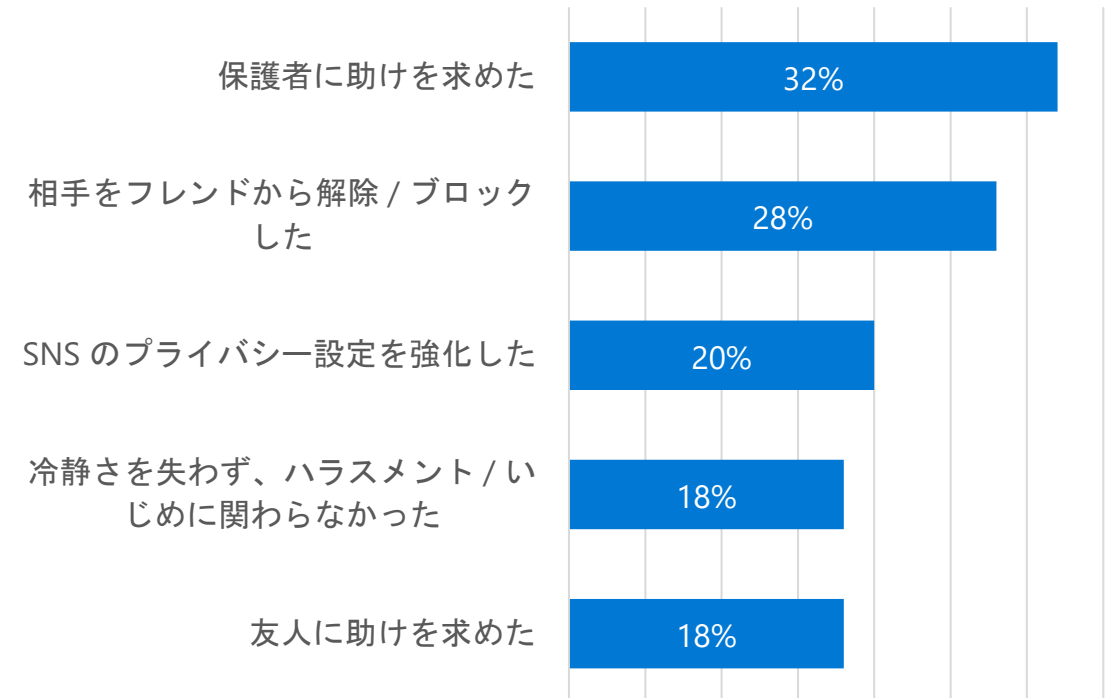
集計ベース: オンライン ハラスメント / ネットいじめに遭った生徒 66 人



■ はい ■ いいえ

実施した行動

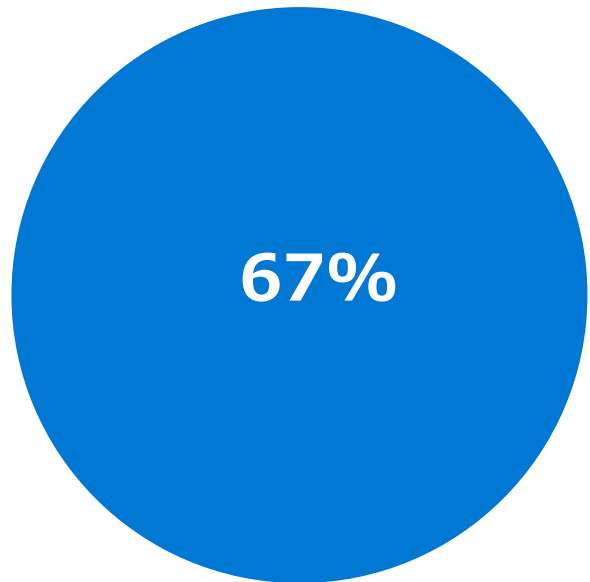
集計ベース: オンライン ハラスメント / ネットいじめに遭った生徒 66 人



# 不適切な行為は生徒の「ニューノーマル」なのか？

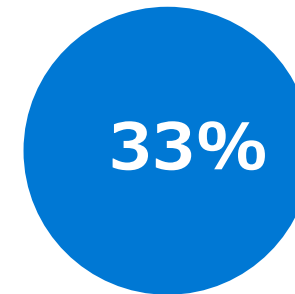
先ほどの質問で示した行為（一般的なオンライン ハラスメント / ネットいじめの形態）は、

オンライン ハラスメント / ネットいじめ  
である



または

オンラインでの正常な 10 代の行  
動である



「ニューノーマル」か？



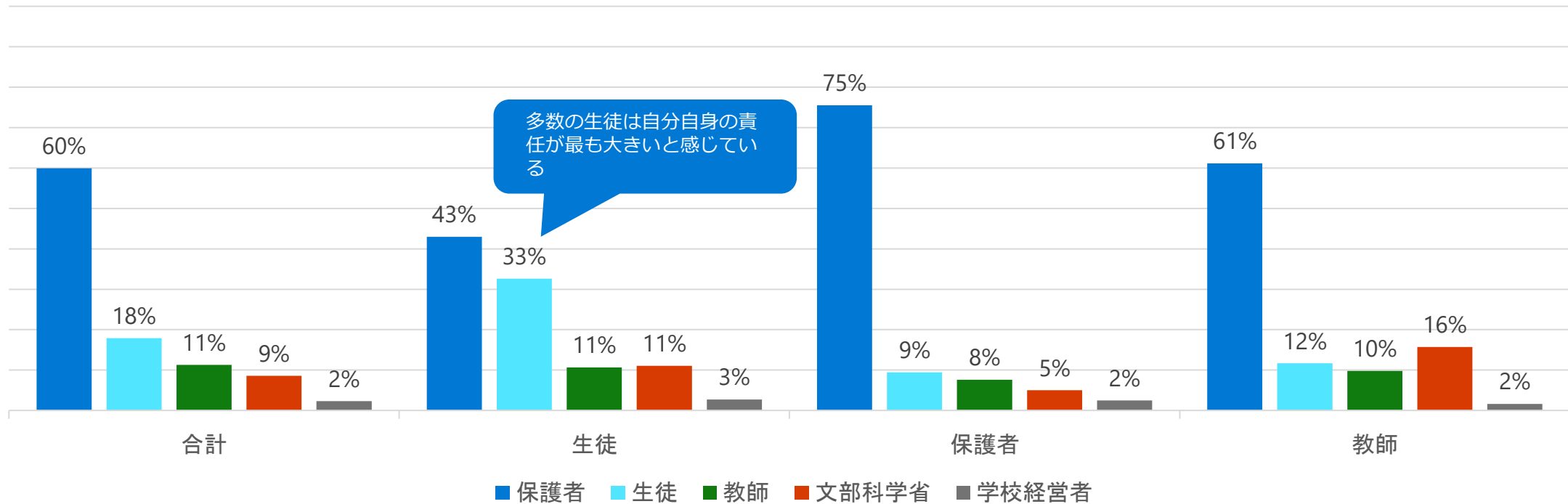
保護者はオンラインハラスメント / ネットいじめに対する第一の防衛線である



# 保護者は生徒に対するオンラインでの安全の教育に最も大きな責任を担っている

オンラインの中高生の安全確保に最も大きな責任を担う人物

集計ベース: 合計 751 人

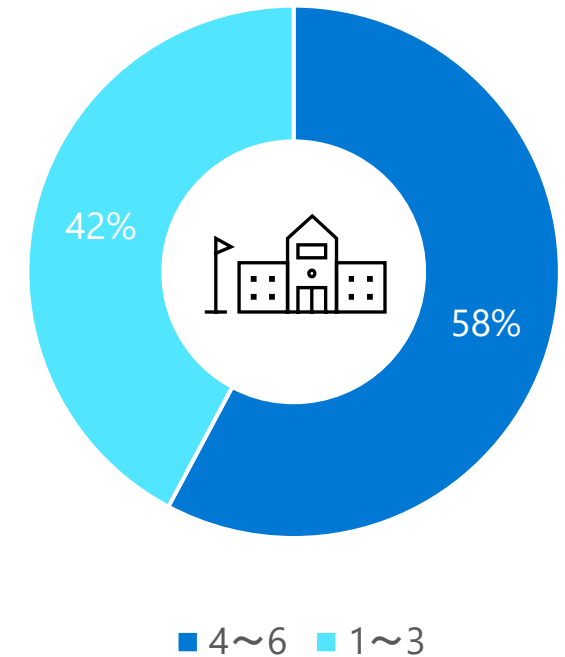
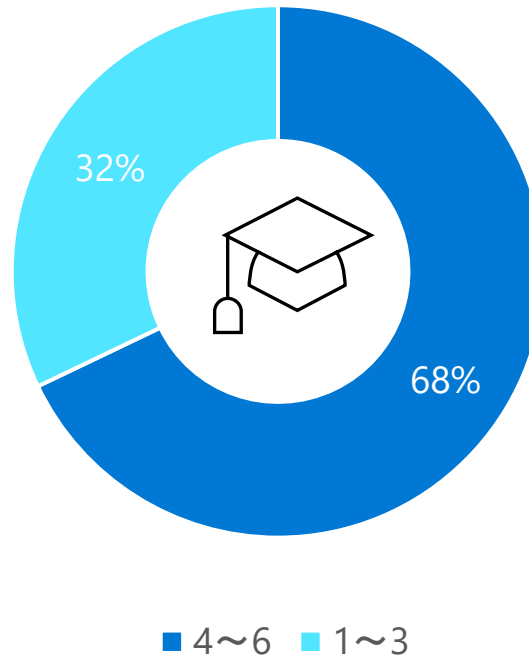
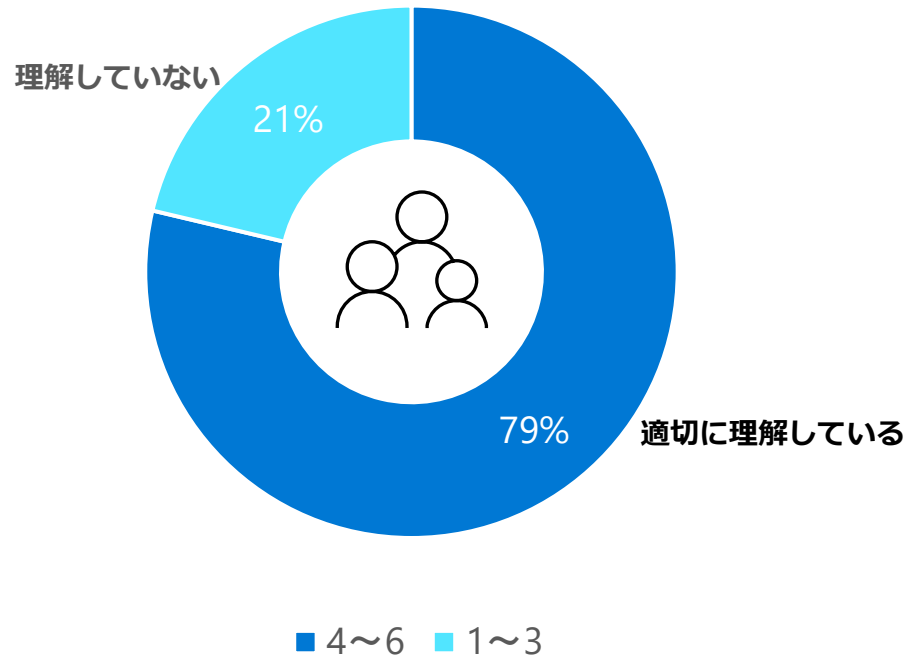


# 生徒は、10代の子供が直面しているオンラインハラスメント / ネットいじめのリスクを最も理解しているのは保護者であると回答

保護者

教師

学校経営者

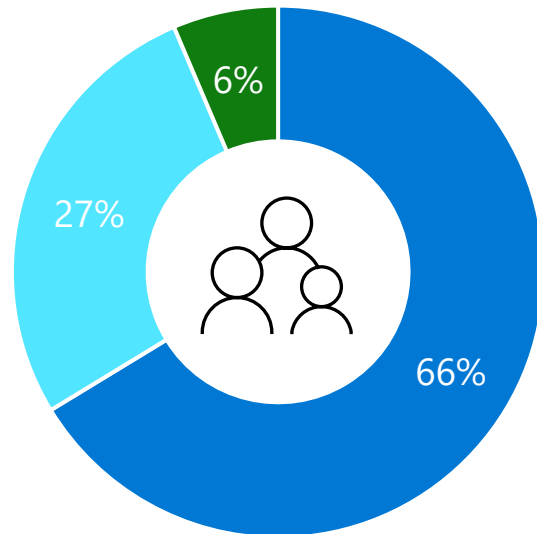


集計ベース: 生徒 250 人  
6 段階評価 (6 = リスクを非常に適切に理解している ~ 1 = リスクを理解していない)

# 3分の2の保護者と教師が1年以内に子供/生徒にオンラインでの安全を確保する方法を教えたと回答

保護者

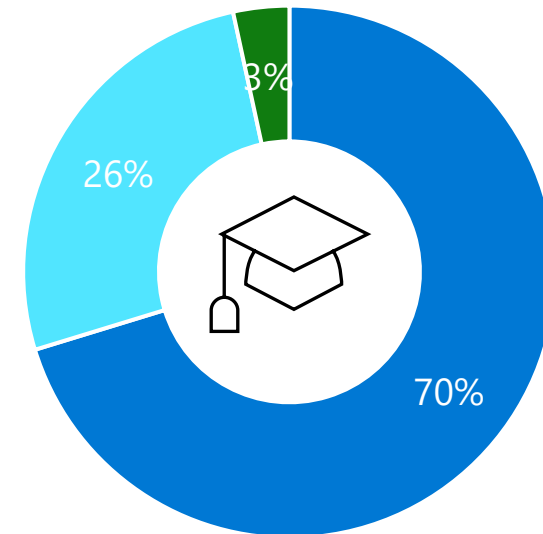
集計ベース: 合計 251 人



■ はい ■ いいえ ■ 教える予定

教師

集計ベース: 合計 250 人

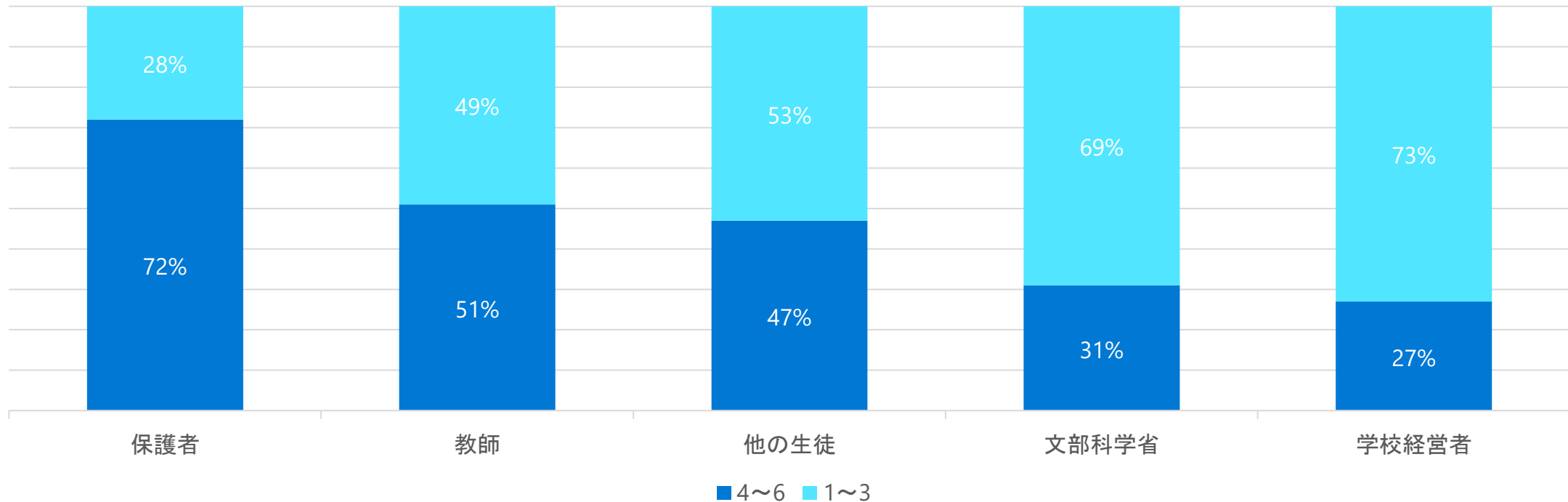


■ はい ■ いいえ ■ 教える予定

# 生徒は主に保護者からオンラインでの安全を確保する方法を学んだと回答

## オンラインでの安全を確保する方法を教えた人物

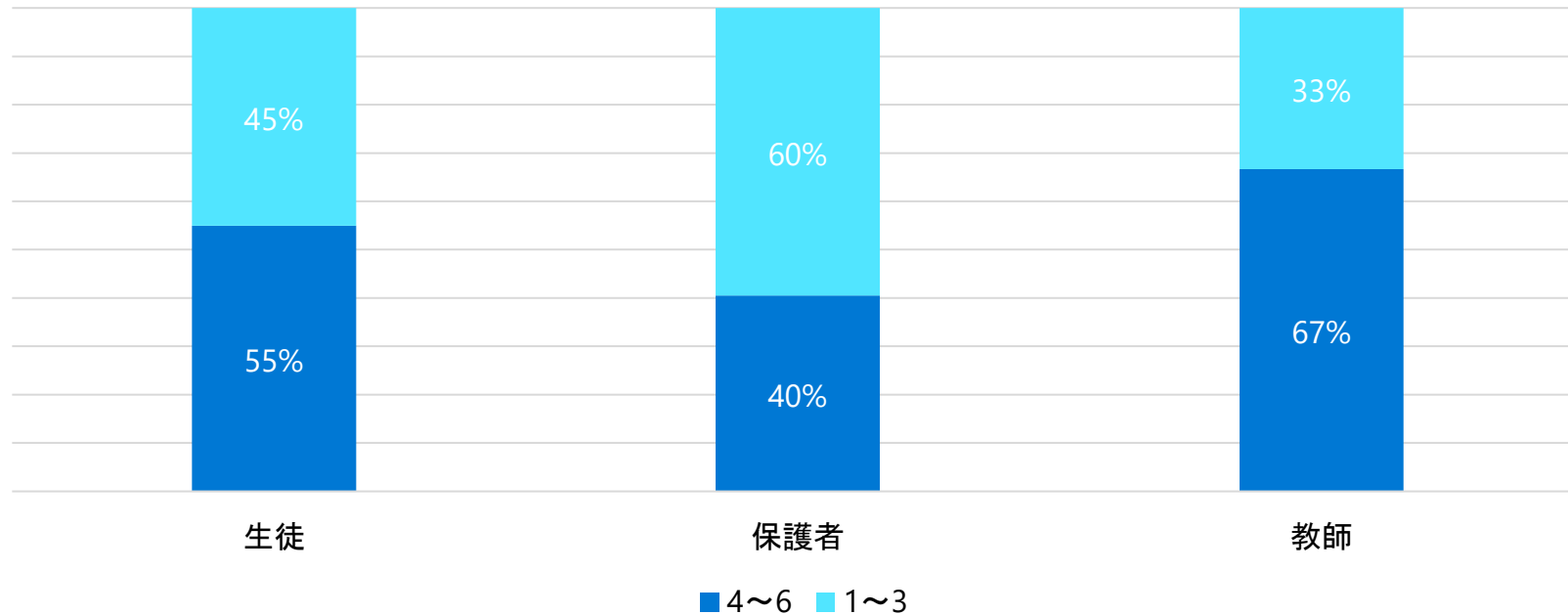
(6段階評価 (6 = とても多くを学んだ ~ 1 = ほとんど学んでいない)、集計ベース: 生徒 250 人)



# ところが保護者は生徒や教師よりもオンライン ハラスメント / ネットいじめに関する知識が少ないと回答

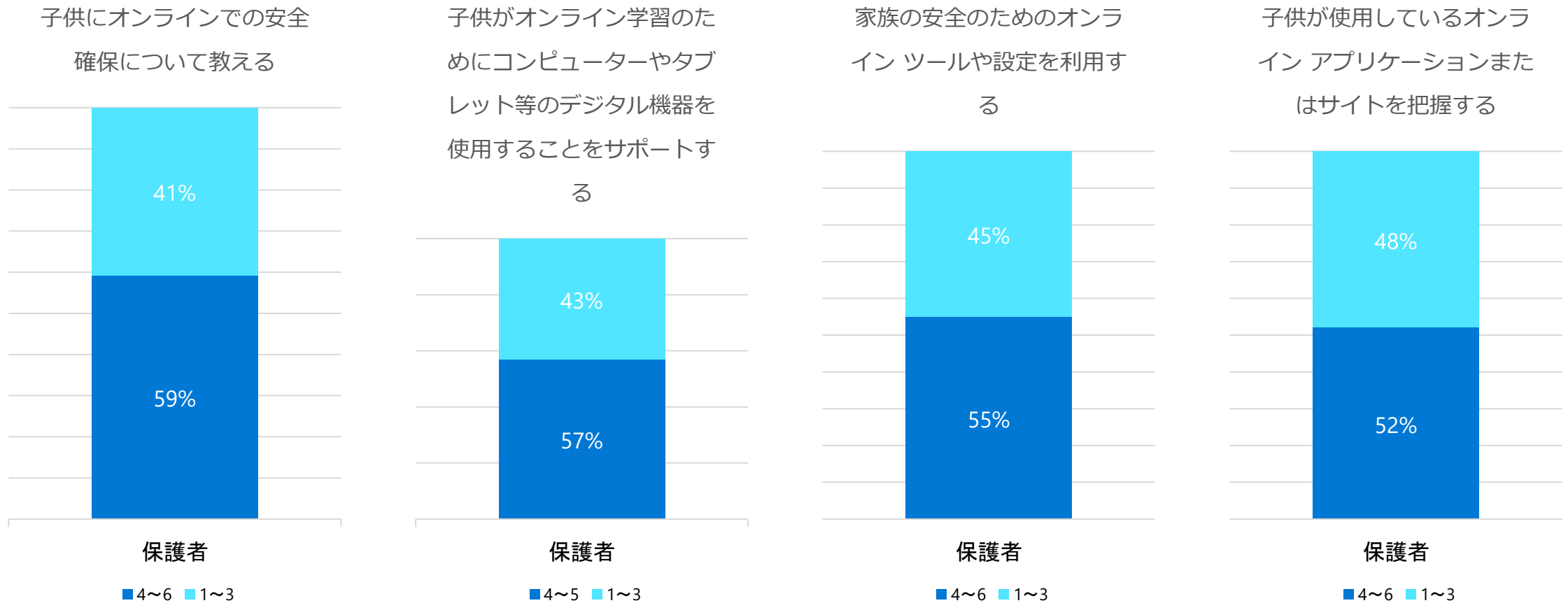
教師の知識が最も多い

集計ベース: 合計 751 人、6 段階評価 (6 = 非常に知識が豊富 ~ 1 = ほとんど知識がない)



# 子供にオンラインでの安全について教育することに対する保護者の自信は平均的

6段階評価 (6 = 自信がある ~ 1 = 自信がない)

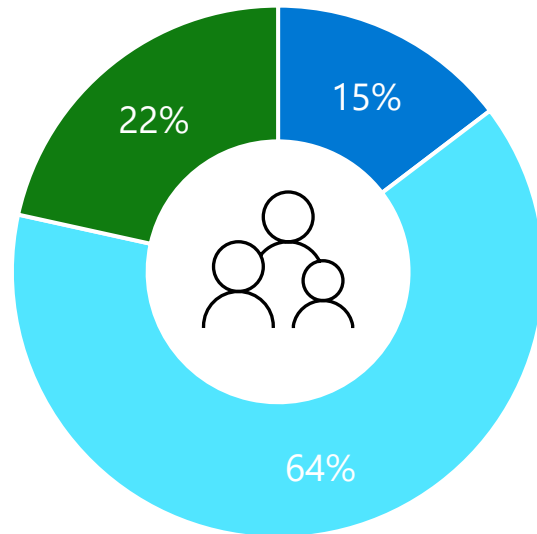


# 支援やサポートを得られる場所を知っている保護者は 15% のみ

支援やサポートを得られる場所を知っている教師の割合はその約 3 倍

## 保護者

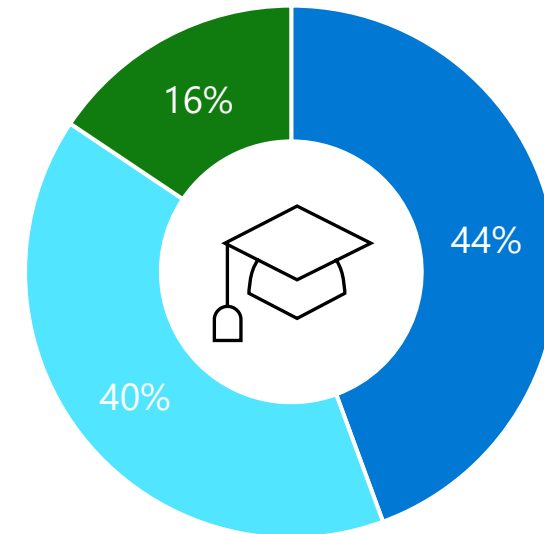
集計ベース: 合計 251 人



■ はい ■ いいえ ■ わからない

## 教師

集計ベース: 合計 250 人



■ はい ■ いいえ ■ わからない



# オンライン ハラスメント / ネットいじめをなくすためには、保護者への教育や支援を強化する必要がある

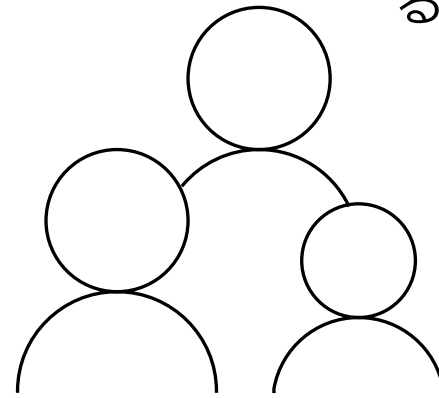


保護者は子供のオンラインでの安全確保に最も大きな責任を担っている

保護者はオンライン ハラスメント / ネットいじめのリスクを最も理解している

大多数の保護者が子供にオンラインでの安全を確保する方法を教えたことがある

生徒は主に保護者からオンラインでの安全を確保する方法を学んでいる



保護者はオンライン ハラスメント / ネットいじめに関する知識が最も不足している

保護者は子供にオンラインでの安全確保について教える能力に非常に自信がない

保護者は子供が遭遇したオンライン ハラスメント / ネットいじめをすべて認識していない可能性がある

オンライン ハラスメント / ネットいじめに対する支援やサポートを得られる場所を知っている保護者はほとんどいない

教師はオンラインでの安全を指導  
および支援できる絶好の立場にある

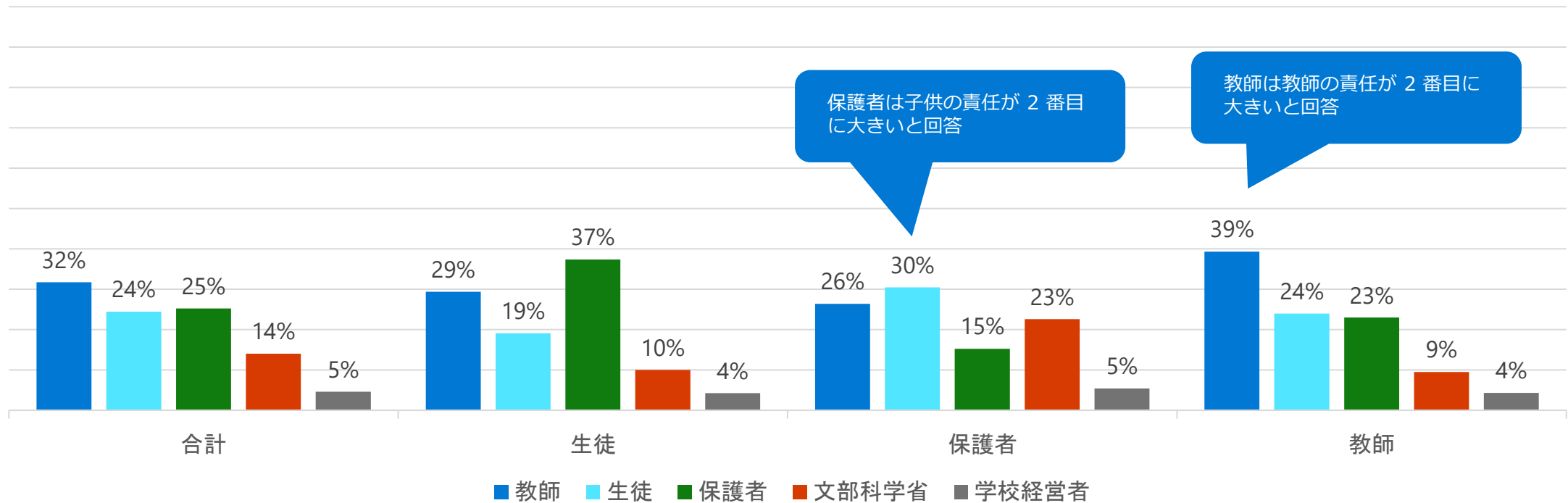


# 教師は 2 番目に大きな責任を担っている

保護者は子供自身もオンラインでの安全に責任を持つ必要があることを認めている

生徒のオンラインでの安全に対する責任が 2 番目に大きい人物

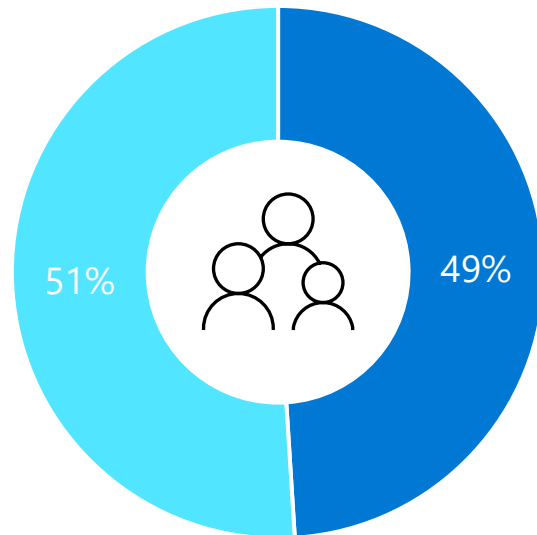
集計ベース: 合計 751 人



# 教師は保護者よりもオンライン ハラスメント / ネットいじめに遭っている子供を助ける能力に自信を持っている

## 保護者

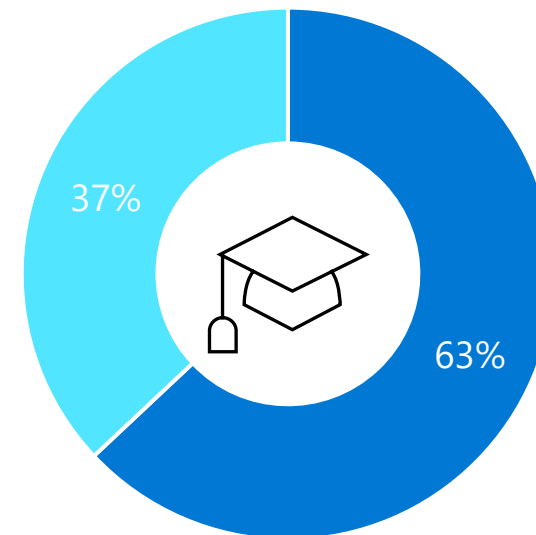
6段階評価 (6 = 自信がある ~ 1 = 自信がない)、集計  
ベース: 合計 251 人



■ 4~6 ■ 1~3

## 教師

6段階評価 (6 = 自信がある ~ 1 = 自信がない)、集計  
ベース: 合計 250 人

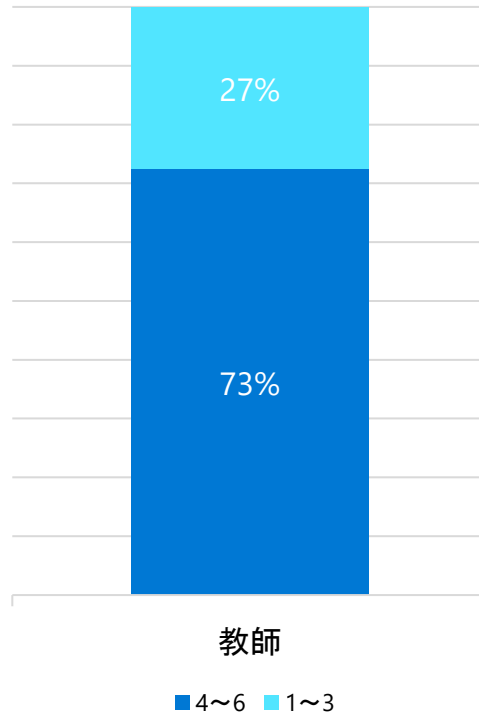


■ 4~6 ■ 1~3

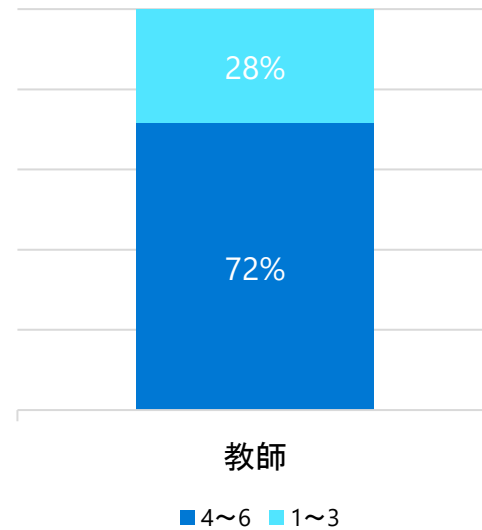
# 教師は生徒にオンラインでの安全について教える能力に自信を持っている

6段階評 (6 = 自信がある ~ 1 = 自信がない)

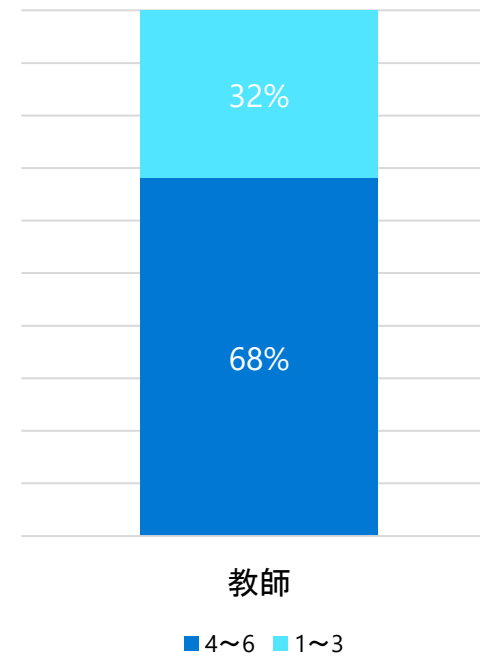
子供にオンラインでの安全  
確保について教える



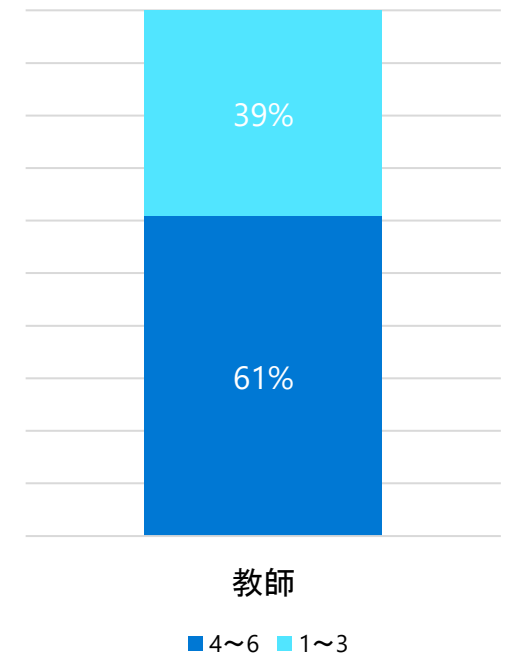
子供がオンライン学習のため  
にコンピューターやタブ  
レット等のデジタル機器を  
使用することをサポートす  
る



子供が使用しているオンラ  
イン アプリケーションまた  
はサイトを把握する

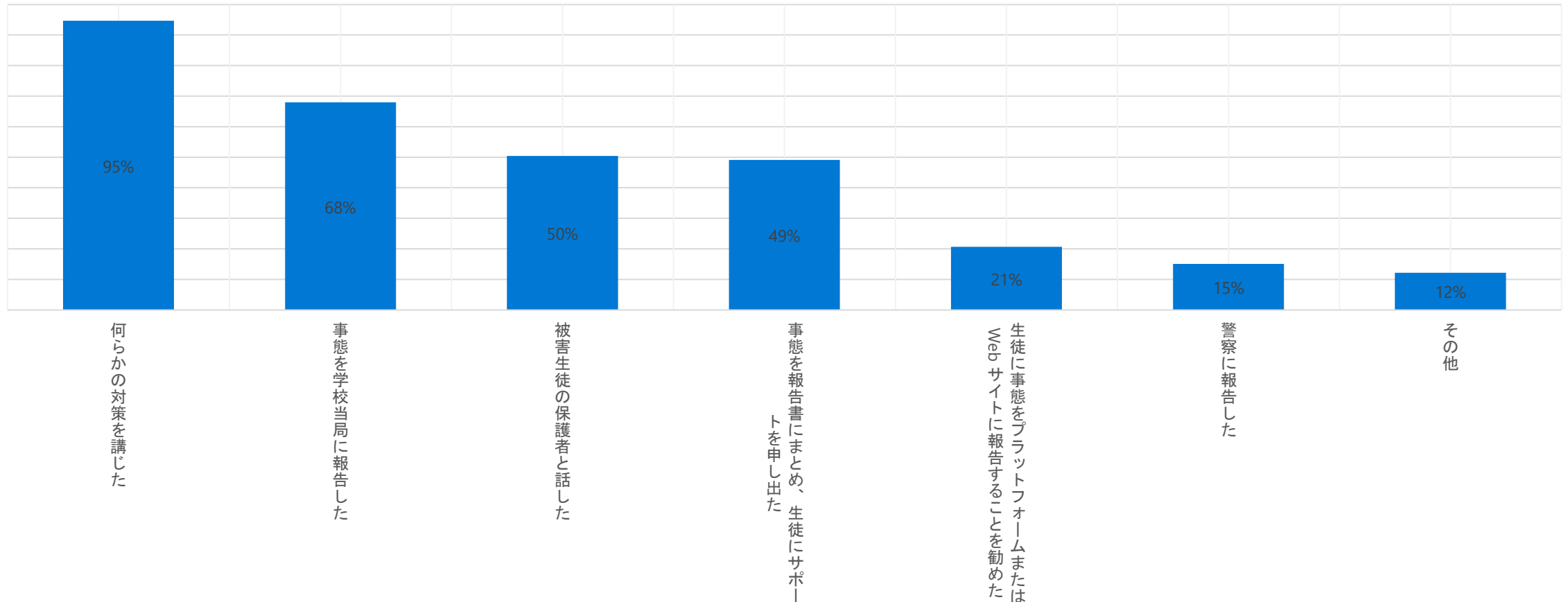


家族の安全のためのオンラ  
イン ツールや設定を利用す  
る



# 95% の教師がオンライン ハラスメント / ネットいじめに遭った生徒を助けるため に行動した

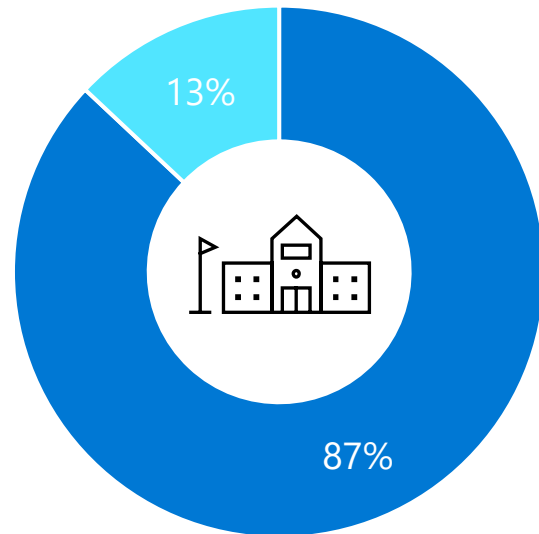
オンラインハラスメント / ネットいじめ後に教師が取った行動  
(集計ベース: 教師 250 人)



# 10人中8人以上の教師がオンラインハラスメント / ネットいじめ対応において 校長や保護者から支援を受けた

## 校長からの支援

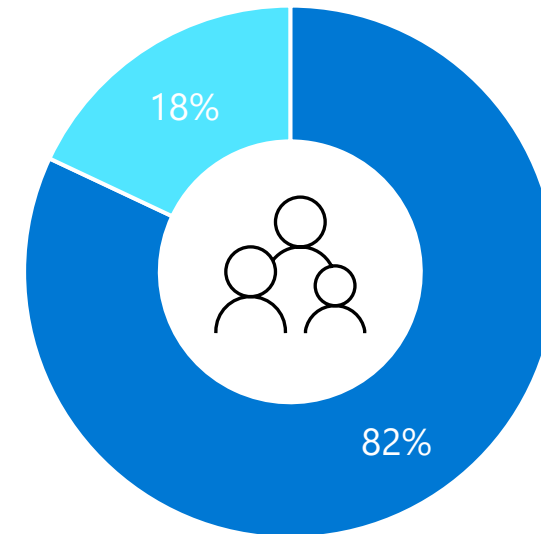
集計ベース: 被害に遭った生徒の教師 172人



■ はい ■ いいえ

## 保護者からの支援

集計ベース: 被害に遭った生徒の教師 172人

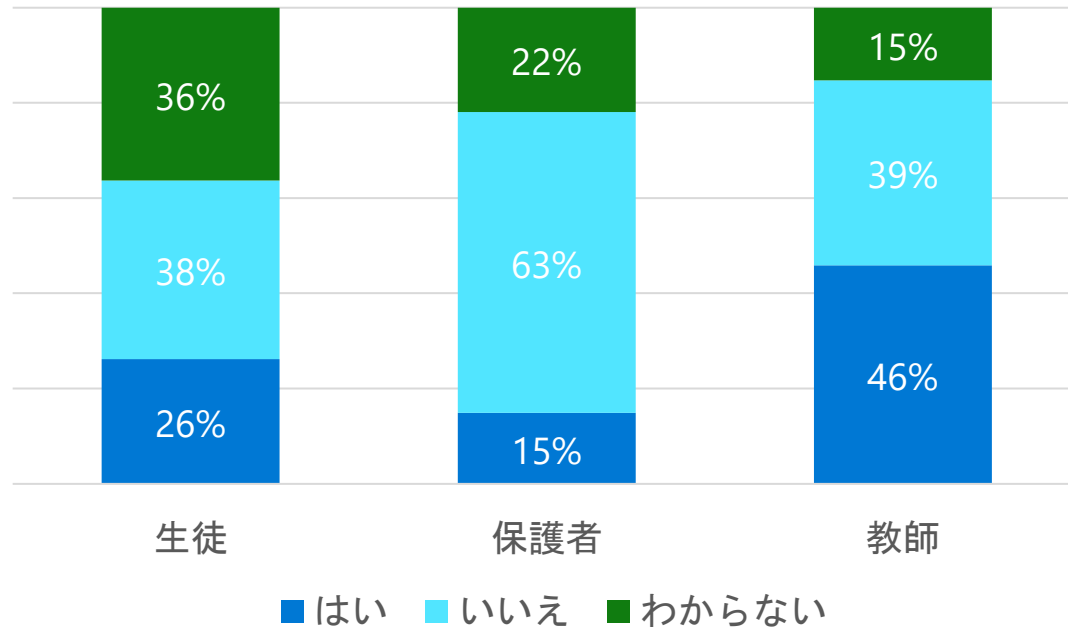


■ はい ■ いいえ

# 大多数の生徒や、特に保護者は支援を得られる場所を知らない

## 支援やサポートを得られる場所を知っている

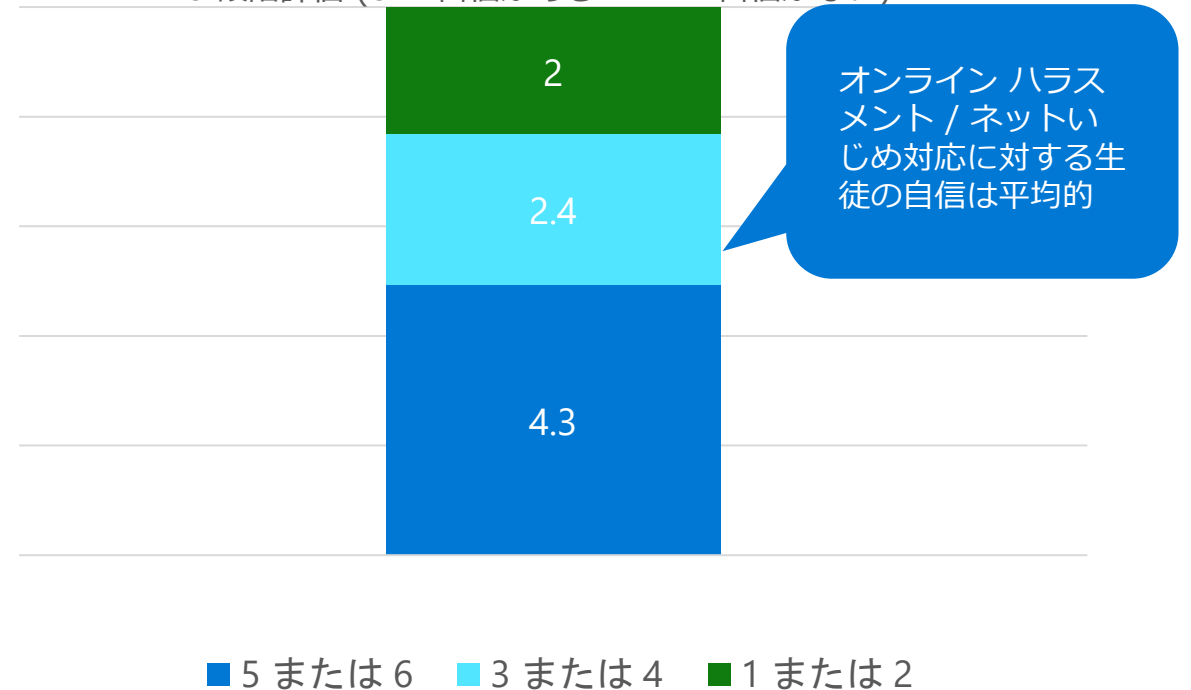
集計ベース: 生徒 250 人、保護者 251 人、教師 250 人



## オンラインでの安全確保に対する自信

集計ベース: 生徒 250 人

6 段階評価 (6 = 自信がある ~ 1 = 自信がない)





# 68% の生徒はオンラインの自身の安全確保のために保護者が対策を講じたと回答

最も多かった対策は個人情報の保護である

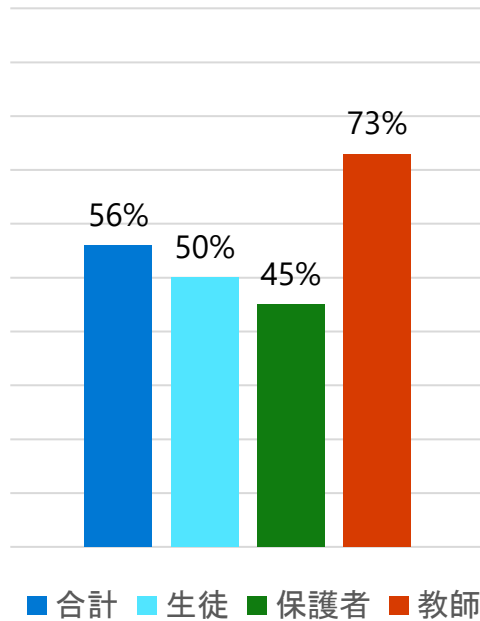
生徒および保護者から報告された保護者による対策 (回答数の多い順)	合計	生徒	保護者	差 (保護者数 - 生徒数)
何らかの対策を講じた	61%	68%	55%	-13%
個人情報の保護方法を教えた	36%	40%	32%	-8%
インターネットの潜在的なメリットとデメリットを説明した	25%	28%	21%	-7%
ペアレンタル コントロールでアプリや Web サイトへのアクセスを制限している	23%	27%	20%	-7%
子供の 1 日あたりのインターネット使用時間を制限した	20%	20%	20%	0%
オンラインでの活動について定期的に話した	20%	22%	18%	-4%
デジタル機器でのアプリ内課金を無効にした	10%	11%	10%	0%
子供が使用するブラウザや検索履歴をチェックした	10%	10%	11%	1%
SNS アプリのアカウント作成を制限した	10%	10%	9%	-1%
子供のオンライン通信相手を把握している	4%	6%	1%	-5%

生徒は保護者自身よりも保護者を高く評価

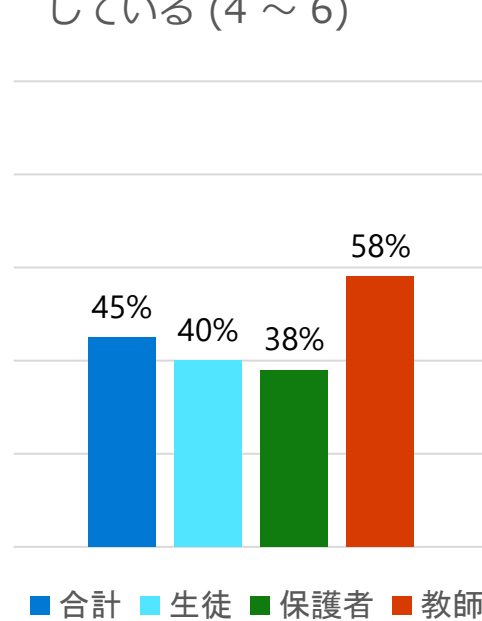
生徒と保護者から報告されたインターネット使用制限時間が一致 (1 日約 3 時間)

# 教師は学校側のオンライン ハラスメント / ネットいじめに関する対応や方針の効果 を過大評価している

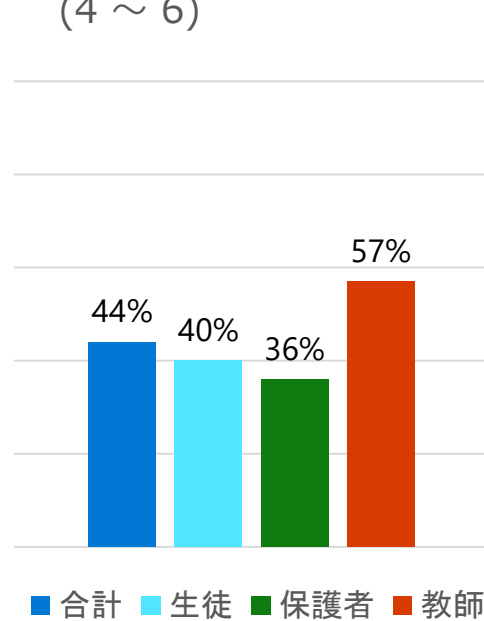
保護者にネットいじめと  
その影響を理解するよう  
に教えた (4 ~ 6)



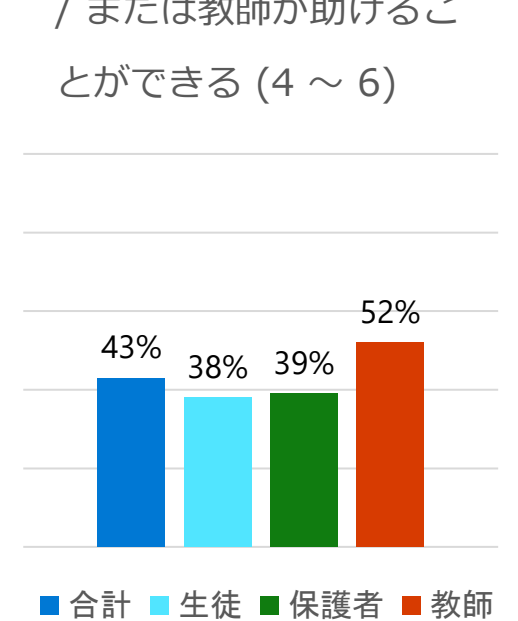
オンラインおよびオフラ  
インでのいじめに関する  
方針を定め、適切に対応  
している (4 ~ 6)



ネットいじめ / オンラ  
イン ハラスメントが許  
されない環境を作った  
(4 ~ 6)



ネットいじめ / オンラ  
イン ハラスメントが発  
生した場合、校長および  
/ または教師が助けるこ  
とができる (4 ~ 6)

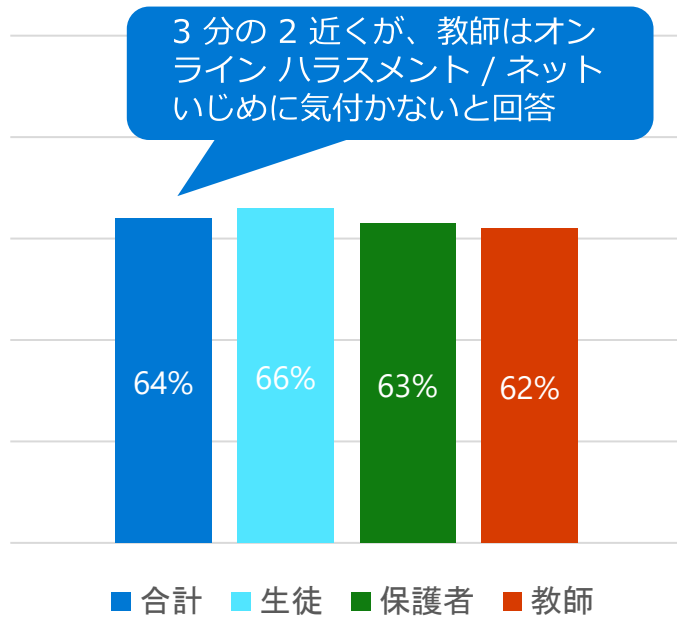


6段階評価 (1 = 全くそう思わない ~ 6 = 非常にそう思う)、(集計ベース: 合計 751 人)

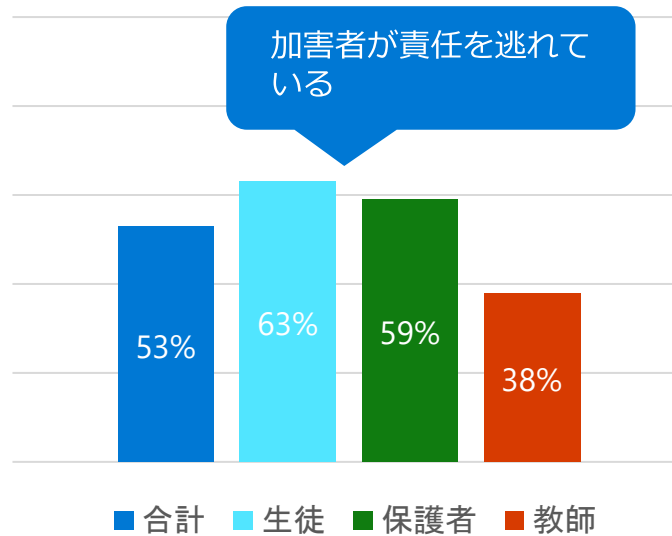
# 全対象者がオンライン ハラスメント / ネットいじめは見逃されていると考えている

教師よりも生徒や保護者の方が、加害者が見逃されていると回答した割合が大きい

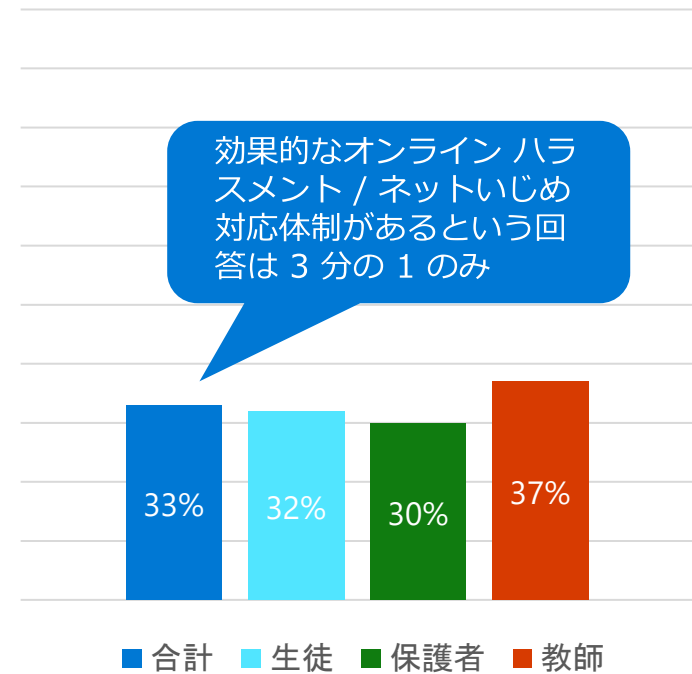
教師はオンライン ハラスメント / ネットいじめを頻繁に見逃している (4 ~ 6)



オンライン ハラスメント / ネットいじめの加害生徒は見逃されていることが多い (4 ~ 6)



効果的なネットいじめ対応体制が確立されている (4 ~ 6)

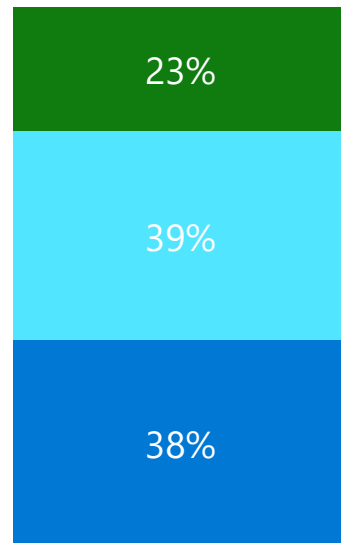


6段階評価 (1 = 全くそう思わない ~ 6 = 非常にそう思う)、(集計ベース: 合計 751 人)

# 教師は、校則はオンライン ハラスメント / ネットいじめの削減に効果があると回答

38% の学校にオンライン ハラスメント / ネットいじめ関連の校則がある

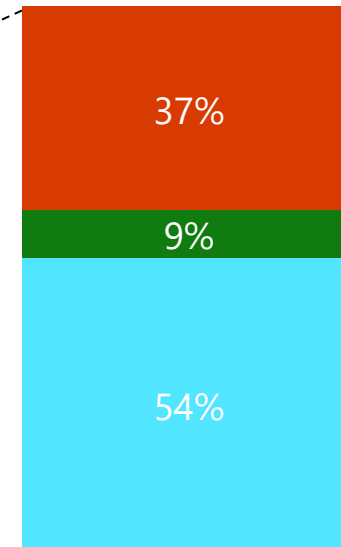
集計ベース: 教師 250人



■ はい ■ いいえ ■ わからない

54% が校則はオンライン ハラスメント / ネットいじめの削減に効果があると回答

集計ベース: 校則がある学校の教師 95 人



■ はい ■ いいえ ■ わからない

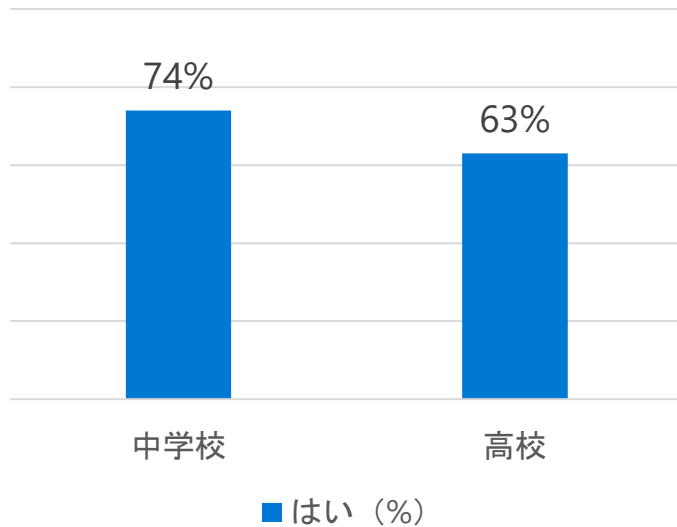
オンラインハラスメント / ネットいじめ対応は、高校よりも中学校の方が進んでいる



# 中学生の方が保護者や教師からオンラインでの安全確保について学んでいる割合が大きい

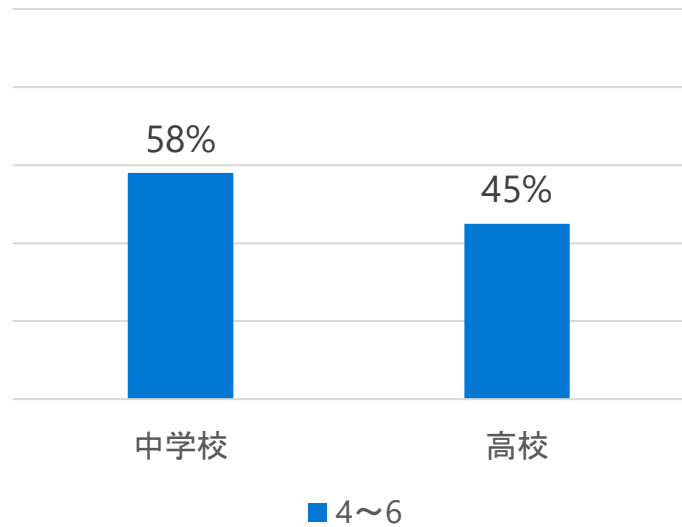
中学生の方がオンラインでの安全について教わっている割合が大きい

集計ベース: 保護者および教師 501 人



中学校教師の方が生徒に効果的にオンラインでの安全について指導している

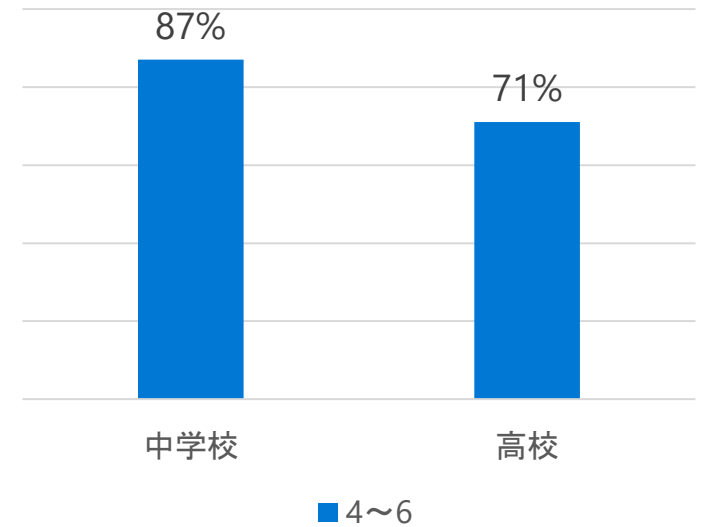
集計ベース: 生徒 250 人



6 段階評価 (6 = 多くのことを学んだ ~ 1 = ほとんど学んでいない)

中学生は保護者の方が生徒が直面しているリスクを適切に理解していると考えている

集計ベース: 生徒 250 人



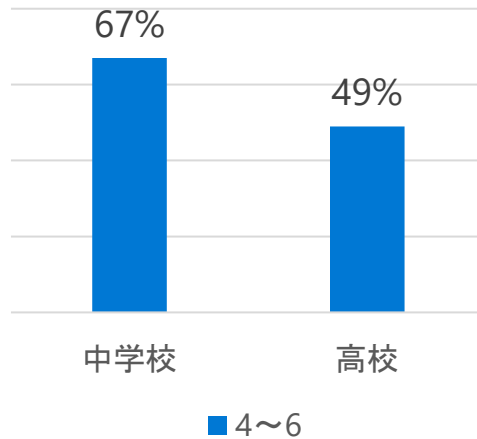
6 段階評価 (6 = リスクを非常に適切に理解している ~ 1 = リスクを理解していない)

Q.OS3: 貴方ご自身はお子様にオンラインでの安全確保について教えたことはありますか?  
Q.OS5: 貴方ご自身は以下の人物からオンラインでの安全確保についてどの程度学びましたか?  
Q.OS17: 保護者、教師および学校経営者は 10 代の子供が直面しているリスクをどの程度理解していると思いますか?

# 中学生の保護者や教師の方が子供 / 生徒への支援や指導に自信を持っている

オンライン ハラスメン  
ト / ネットいじめを管  
理する

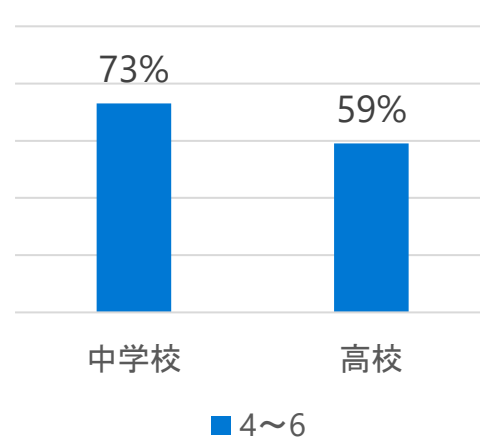
集計ベース: 保護者および教師  
501 人



## 以下に対する自信

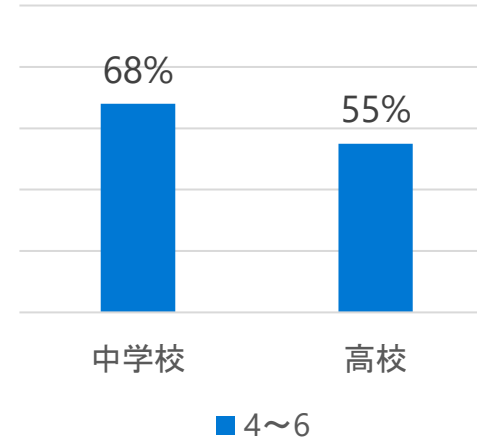
子供がオンライン学習の  
ためにコンピューターや  
タブレット等のデジタル  
機器を使用することをサ  
ポートしている

集計ベース: 保護者および教師…



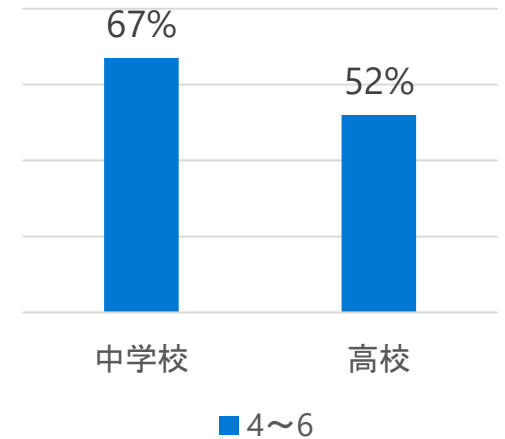
子供が使用しているオン  
ライン アプリケーショ  
ンまたはサイトを把握し  
ている

集計ベース: 保護者および教師  
501 人



家族の安全のためのオン  
ライン ツールや設定を  
使用している

集計ベース: 保護者および教師  
501 人



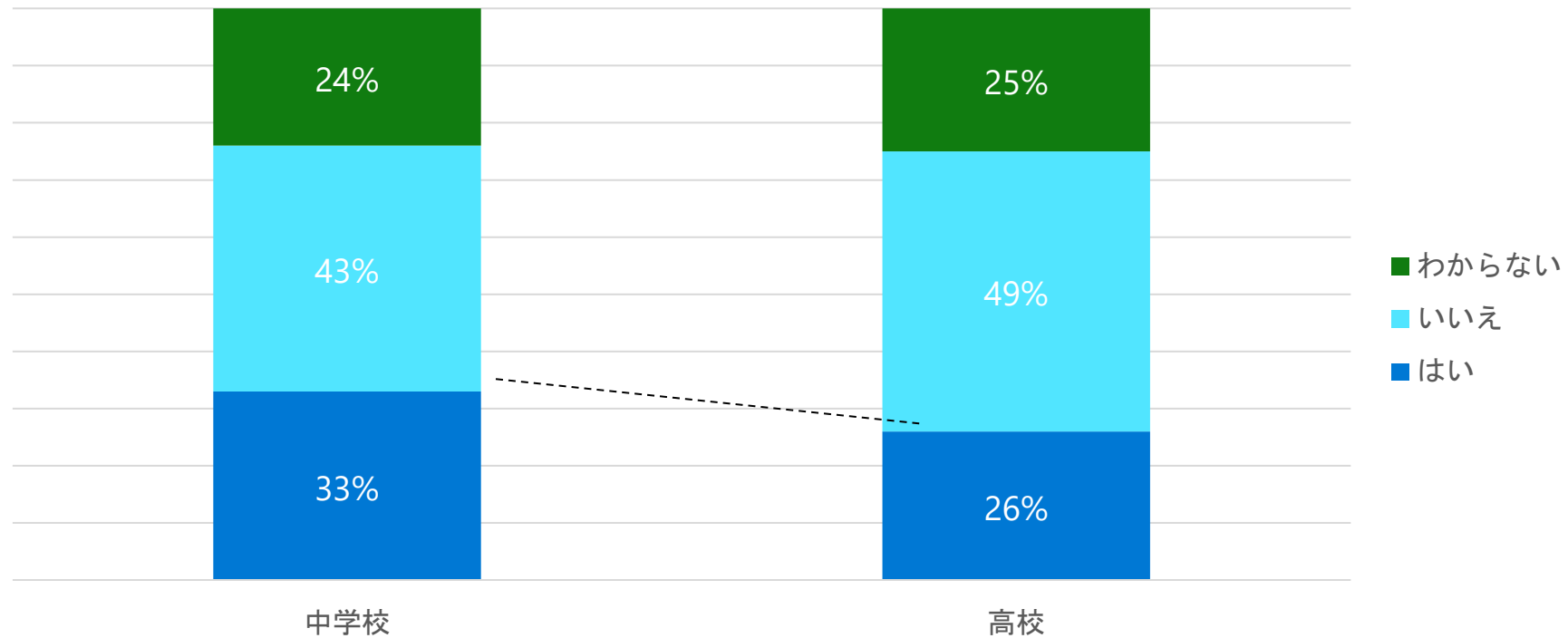
6 段階評価: (6 = 自信がある ~ 1 = 自信がない)

# 中学校の生徒、保護者および教師の方が、支援を得られる場所を把握している割合が大きい

ただし、中学校または高校にかかわらず、大多数の対象者が支援やサポートを得られる場所を知らない

支援やサポートを得られる場所を知っている

集計ベース: 合計 751 人



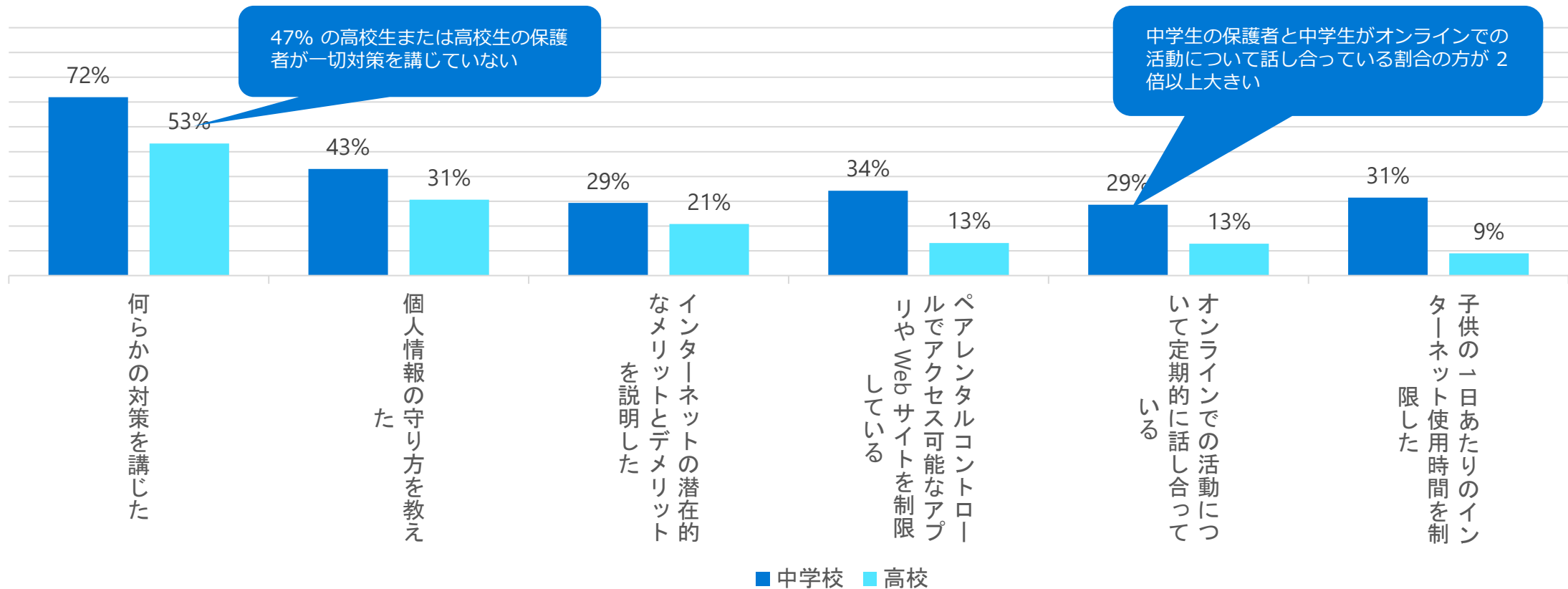


# 70% 以上の中学生の家庭がオンラインでの安全確保のための対策を講じている

高校生の家庭よりも 19 ポイント高い

## オンラインでの安全確保のために講じた対策

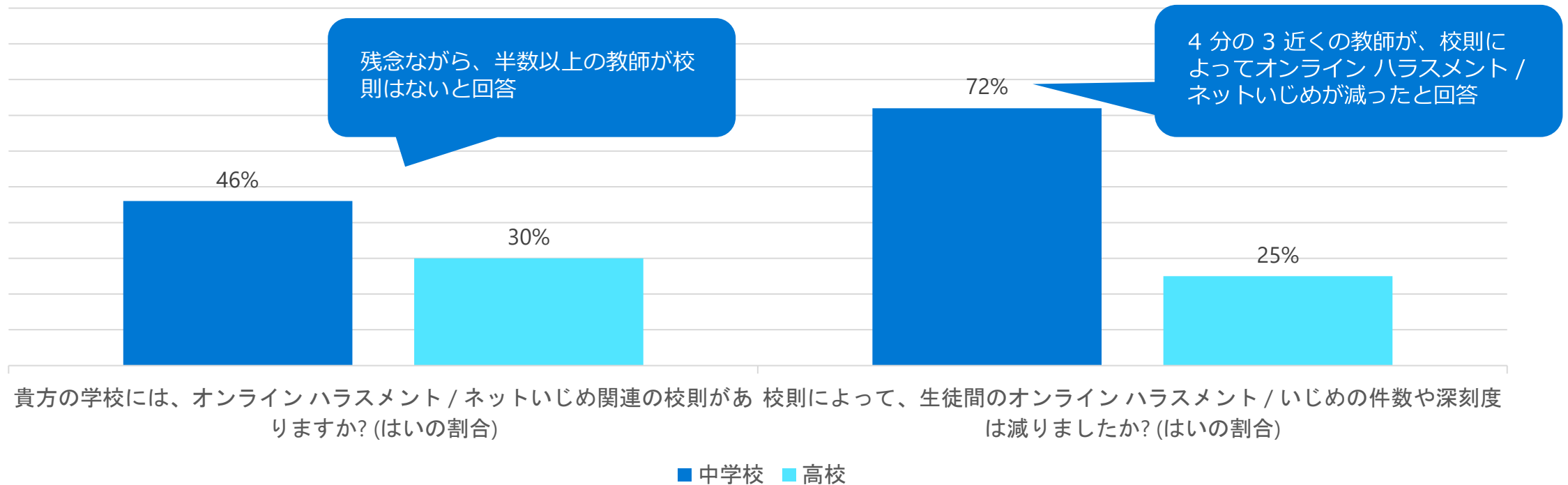
集計ベース: 生徒および保護者 501 人



# オンライン ハラスメント / ネットいじめ関連の校則は効果的であると回答した中学校教師の割合は、高校教師の割合の約 3 倍

## オンライン ハラスメント / ネットいじめ関連の校則の有無と効果

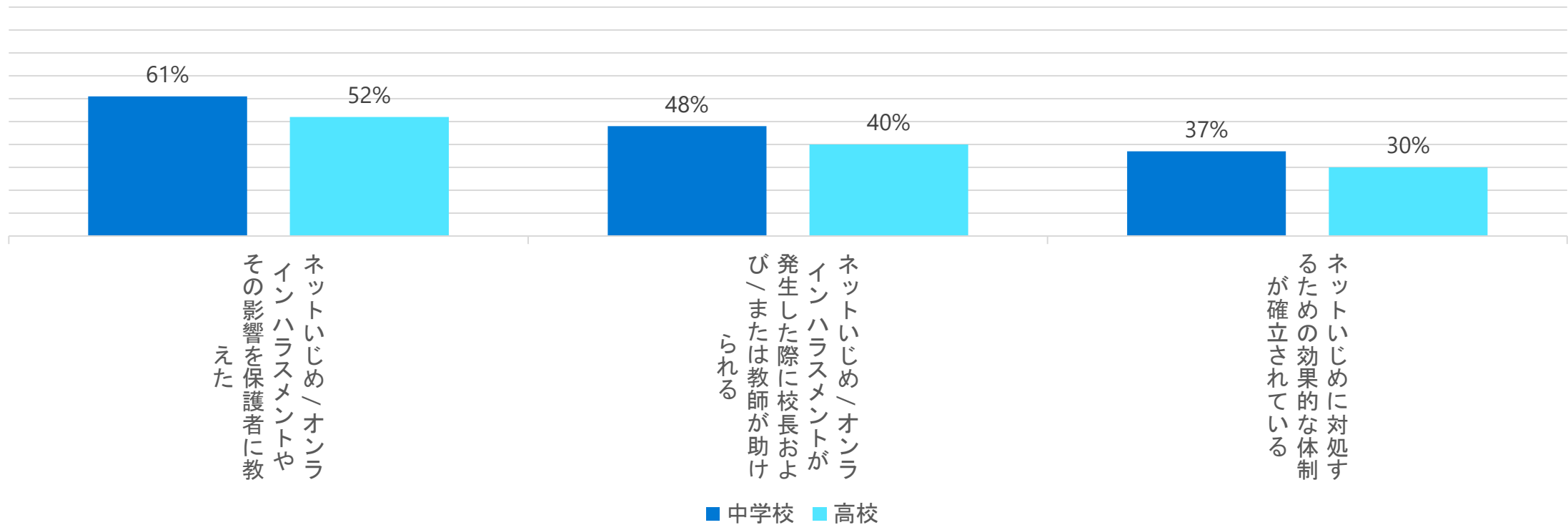
「はい」の割合 (%)、集計ベース: 教師 250 人、校則がある学校の教師 95 人



# 中学校の方が学校側の対応や校則の普及が進んでいる

学校側がオンライン ハラスメント / ネットいじめ対応として講じた対策

4 ~ 6 の割合、集計ベース: 合計 751 人

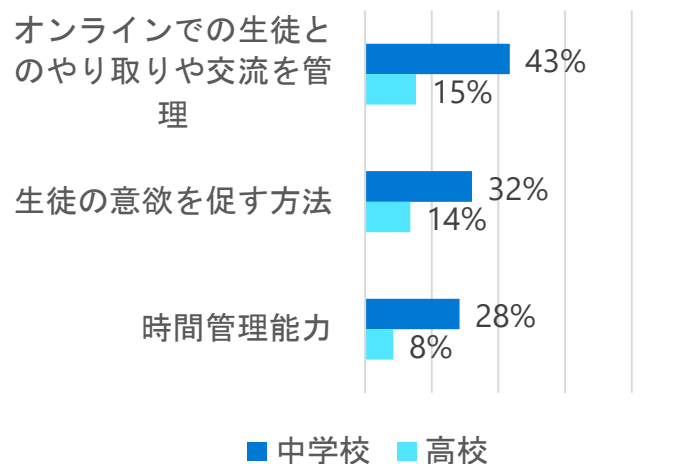


6段階評価: (6 = 非常にそう思う ~ 1 = 全くそう思わない)

# トレーニング、サポートおよびデジタル機器は中学校の方が充実している

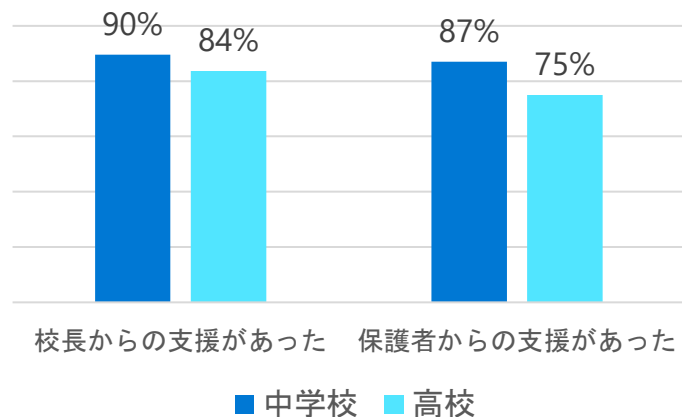
中学校教師の方がトレーニングからの学習が多いことを報告

集計ベース: トレーニングを受けた教師 115 人



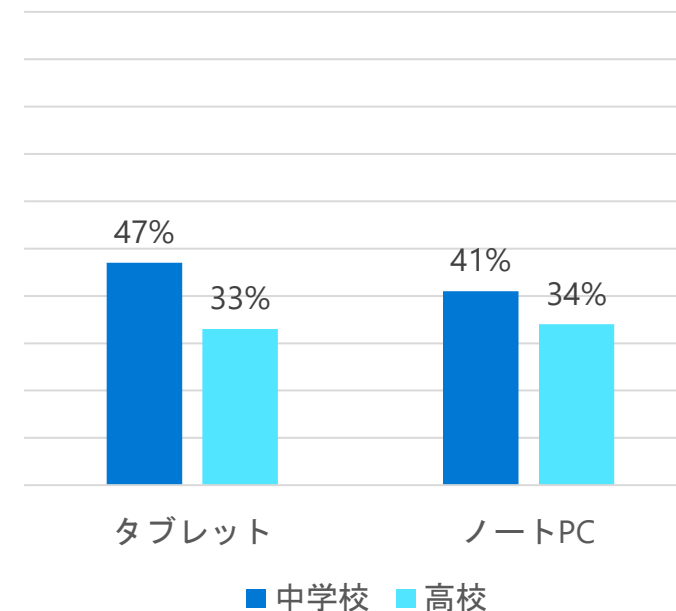
中学校教師の方がハラスメント / ネットいじめの際に保護者から支援を得られた割合が大きい

集計ベース: オンライン ハラスメント / ネットいじめに遭遇した教師 171 人



中学校教師の方がデジタル機器を支給された割合が大きい

集計ベース: 教師 250 人



Q.OL3: 貴方が受けたトレーニングや教育に以下のテーマは含まれていましたか?  
Q.OS10B\_1,2: オンライン ハラスメント / ネットいじめに対応するにあたり、校長 / 保護者からの支援はありましたか?  
Q.OL7: オンライン授業に備え、学校から以下のいずれかの支給はありましたか?

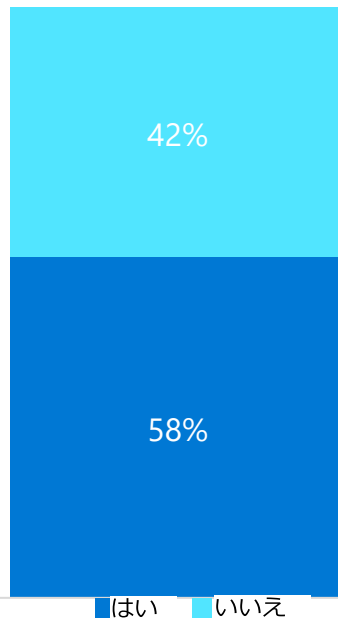
教師と生徒は、トレーニングや教育はオンラインでの安全確保に有効と考えている



# 58% の生徒が学校でオンラインでの安全確保に関する正式な授業 / トレーニングを受けたと回答

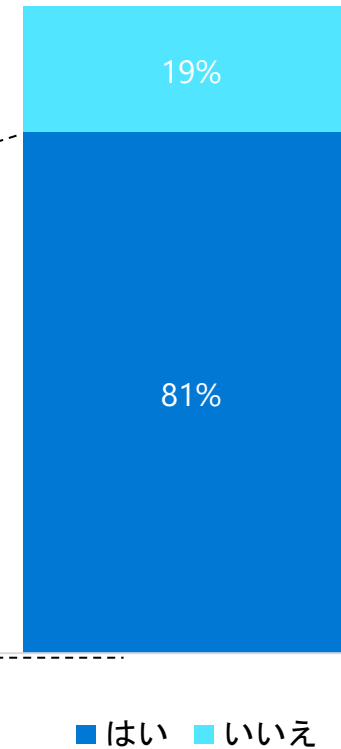
学校でオンラインでの安全確保に関する正式な授業やトレーニングを受けた

集計ベース: 生徒 250 人



オンラインでの安全確保に関する授業やトレーニングの有効性

集計ベース: 正式な授業やトレーニングを受けた生徒 144 人



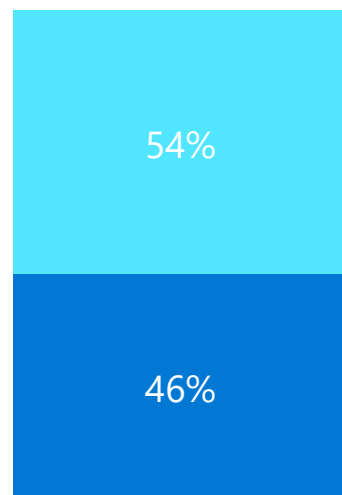
授業やトレーニングを受けた生徒の大多数が役に立ったと回答

# 46% の教師がオンライン授業のためのトレーニングや教育を受けた

大多数の教師が学校からトレーニングや教育を受けた

## トレーニングを受けた教師

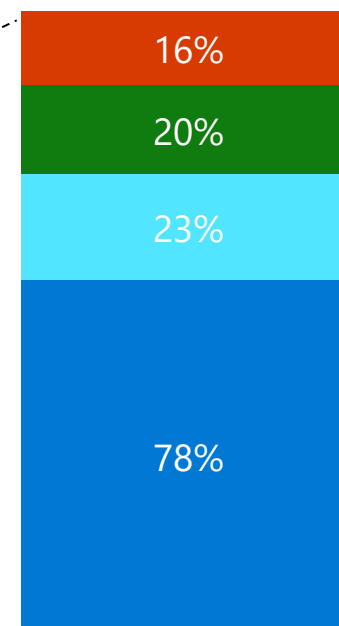
集計ベース: 教師 250 人



■ はい ■ いいえ

## 教師向けトレーニングは主に学校が実施

集計ベース: トレーニングを受けた教師 115 人

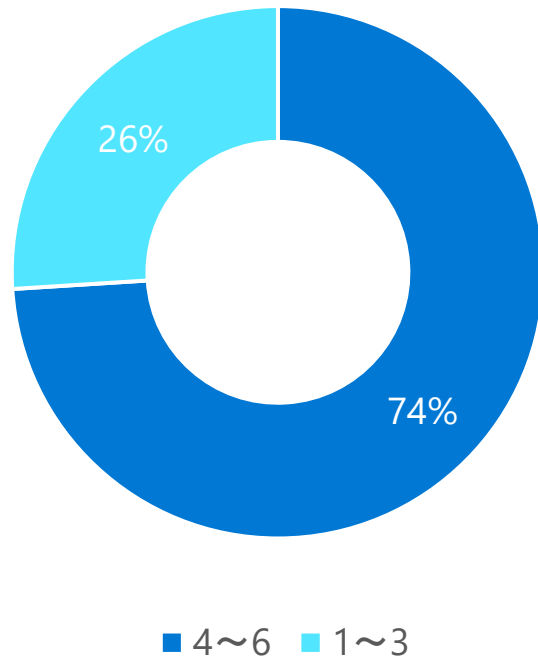


- 文部科学省
- コンサルタント
- 独学
- 学校

# 生徒と同様に、教師もトレーニングは有効と回答

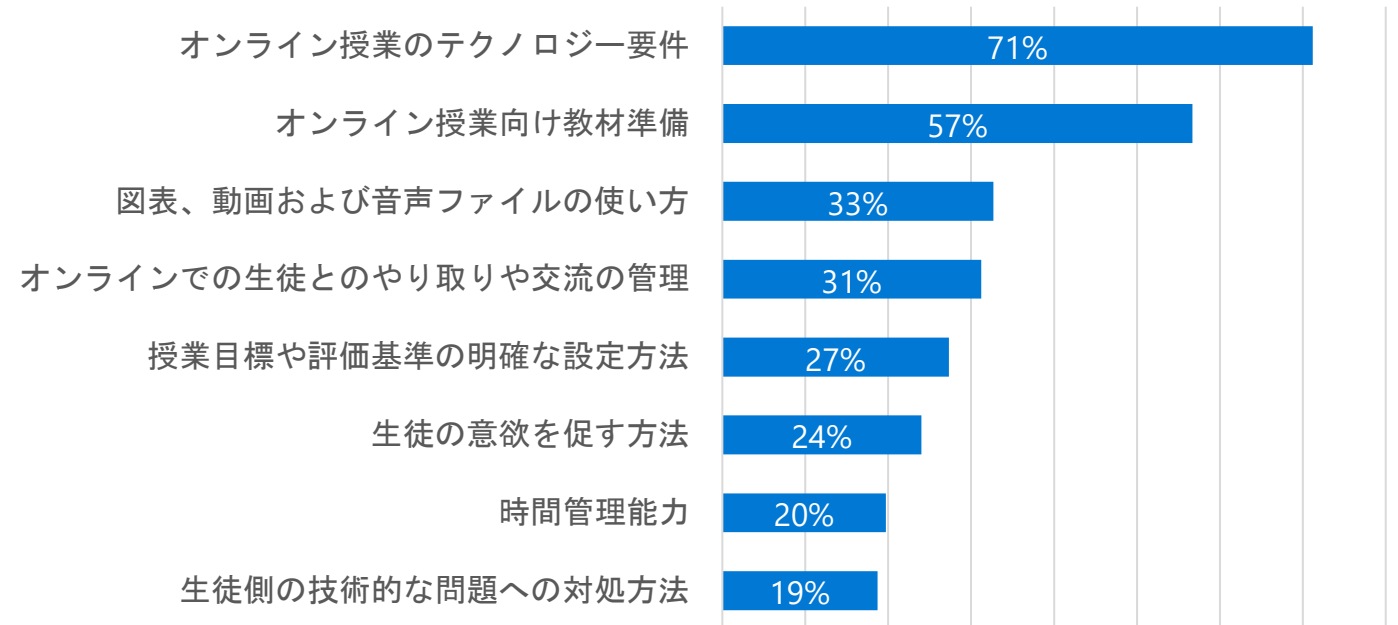
74% がトレーニングは有効と回答

集計ベース: トレーニングを受けた教師 115 人  
6 段階評価 (6 = 役に立った ~ 1 = 役に立っていない)



## オンライン授業に関するトレーニングで扱われたテーマ

集計ベース: トレーニングを受けた教師 115 人



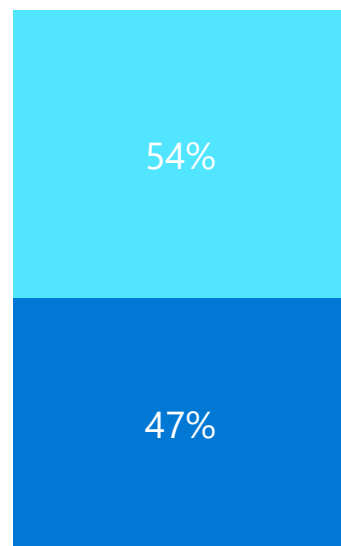


# 半数弱の学校がオンライン授業に対応した

大都市の学校の方がオンライン授業に対応した割合が高い (57% vs. 38%)

## オンライン授業に対応した学校

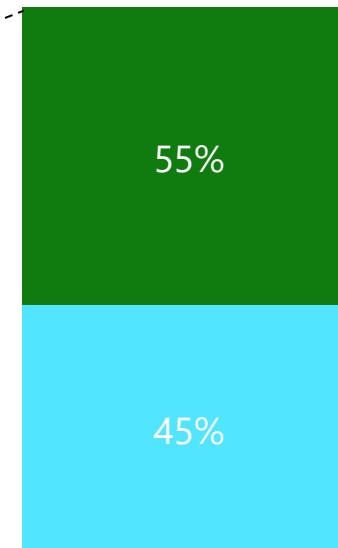
集計ベース: 教師 250 人



■ はい ■ いいえ

## オンライン授業を実施した教師

集計ベース: 学校でオンライン授業を実施した教師 116 人



■ はい ■ いいえ

オンライン授業に対応した学校の中でオンライン授業を実施した教師は半数以下

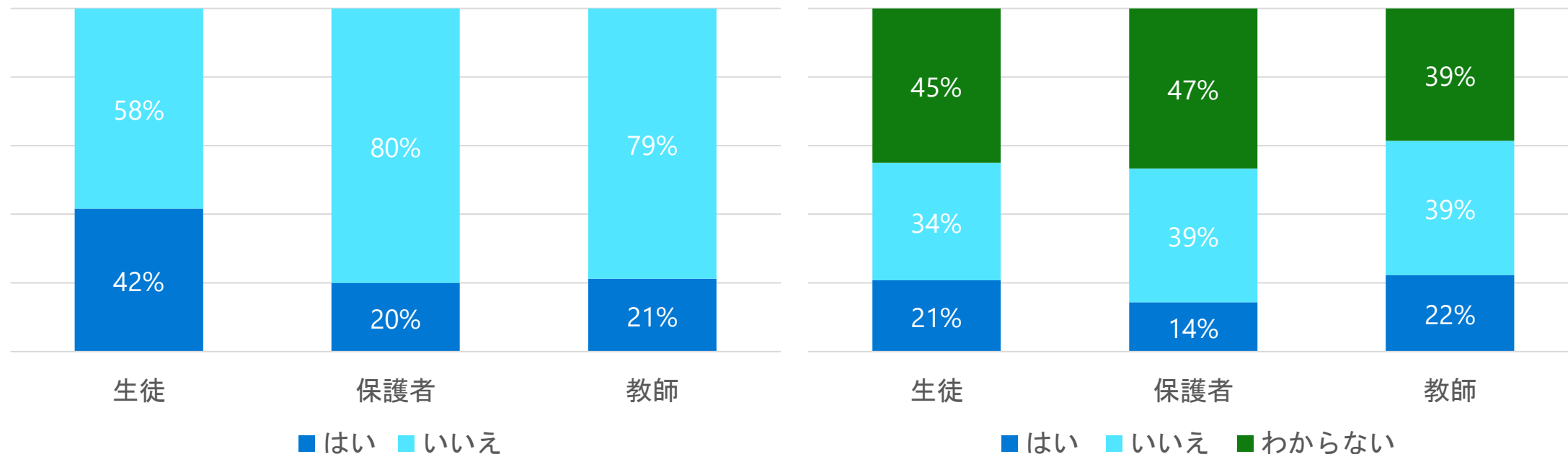
過去 12 か月以内にオンライン授業に参加したと回答した生徒の割合は、同様に回答した保護者の割合よりも遥かに大きい。大勢の回答者が今年の予定を把握していない

過去 12 か月以内にオンライン授業に参加

集計ベース: 生徒 250 人、保護者 251 人、教師 250 人

今年オンライン授業を受ける / 実施する予定

集計ベース: 生徒 250 人、保護者 251 人、教師 250 人

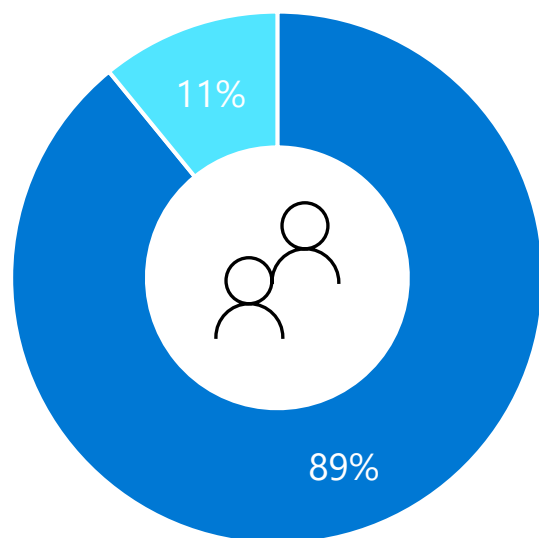


注意: 保護者の回答は子供の実際の行動または予定の行動

# 過去 12 か月以内にオンライン授業に参加した調査対象者は、対面授業の方が効果的な学習環境であると回答

## 生徒

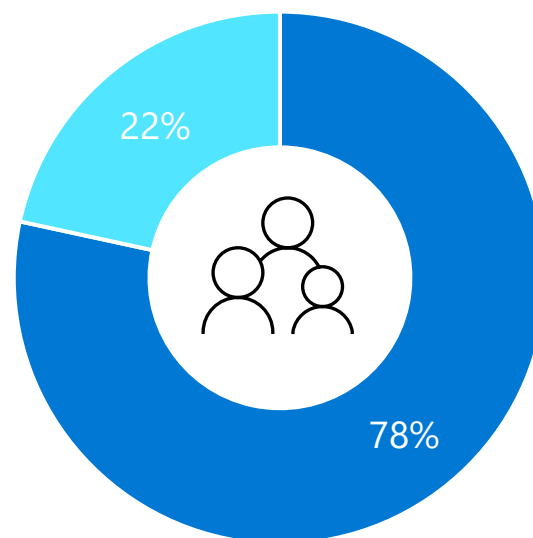
集計ベース: オンライン授業を受けた生徒  
104 人



■ 4~6 ■ 1~3

## 保護者

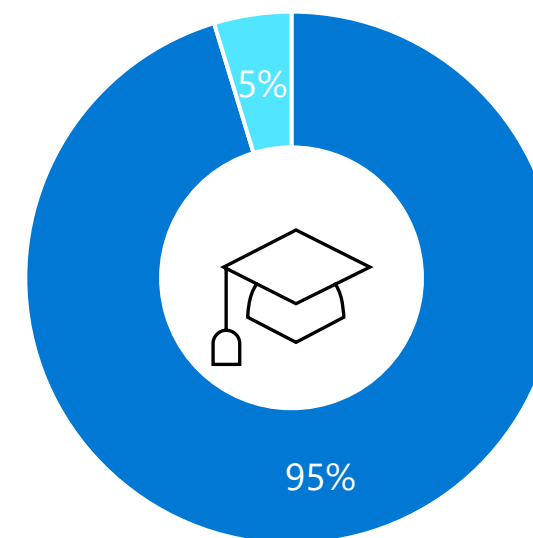
集計ベース: オンライン授業を受けた子供の  
保護者 50 人



■ 4~6 ■ 1~3

## 教師

集計ベース: オンライン授業を実施した教師  
53 人



■ 4~6 ■ 1~3

6 段階評価: (6 = 対面授業 ~ 1 = オンライン授業)

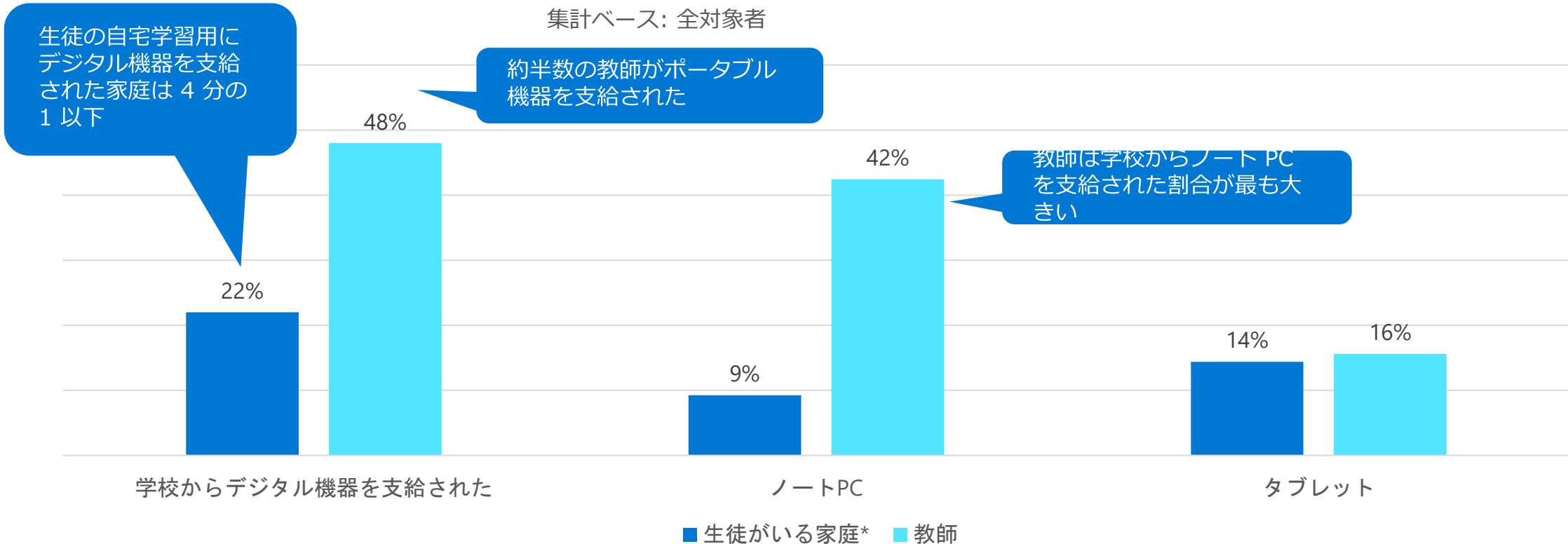
生徒と保護者は自宅オンライン学習における最大の課題は学習意欲の維持と回答する一方、教師は技術的な問題について回答した割合が大きい

オンライン学習の最大の課題は何か?	合計	生徒	保護者	教師	差 (保護者数 - 生徒数)	差 (教師数 - 生徒数)	差 (教師数 - 保護者数)
学習意欲の維持	45%	51%	50%	34%	-2%	-18%	-16%
対面でのやり取りや支援がない	31%	28%	34%	30%	6%	2%	-3%
気が散る、集中することが難しい	27%	32%	27%	24%	-5%	-8%	-3%
慣れないテクノロジーへの適応	26%	24%	18%	38%	-6%	14%	20%
オンライン授業中の接続の悪さや技術的な問題	26%	17%	21%	39%	4%	22%	17%
対面授業用の教材をオンライン授業用に活用できない	14%	14%	9%	20%	-5%	6%	11%
データ プライバシーとセキュリティ	13%	7%	15%	17%	8%	10%	2%

# 教師は学校からデジタル機器を支給された割合が最も大きい

## 昨年の学校からのデジタル機器支給状況

集計ベース: 全対象者

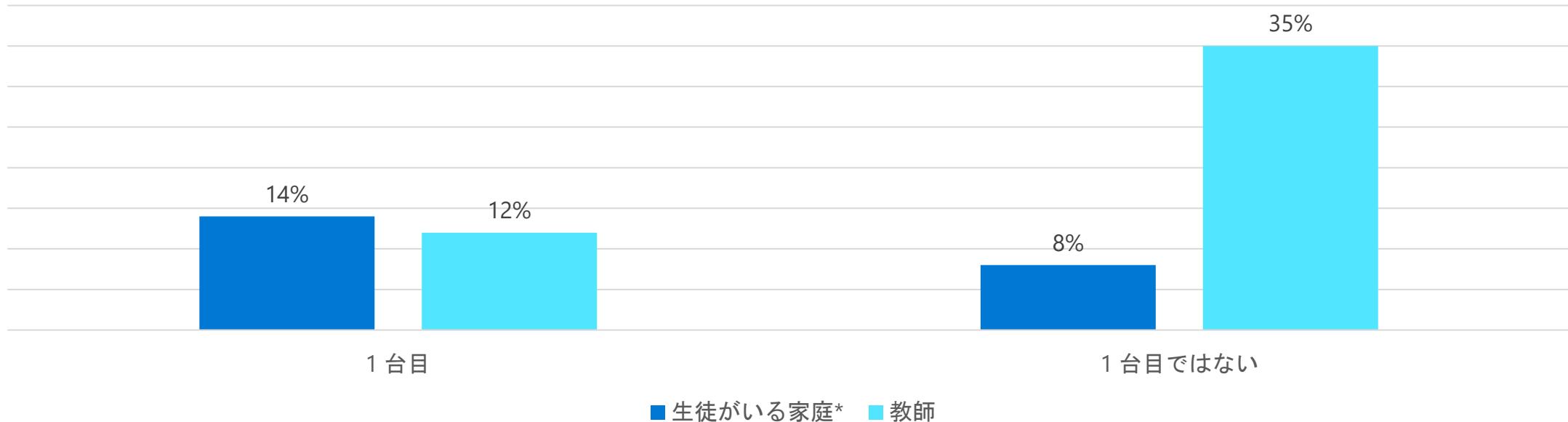


\*子供への支給品に関する生徒と保護者の回答を合計

# 学校からデジタル機器を支給された教師のうち、それが自宅で 1 台目のノート PC またはタブレットであると回答した教師はほとんどいない

家庭で 1 台目のデジタル機器として学校からノート PC またはタブレットを支給された割合

集計ベース: 全対象者、生徒がいる家庭 501 人、教師 250 人



\*子供への支給品に関する生徒と保護者の回答を合計

## 付録

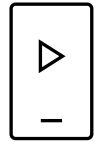
デジタル ライフスタイル  
GIGA スクール構想  
テレワーク  
デジタル機器データ  
人口データ  
用語集



# デジタル ライフに関する考え方

集計ベース: 生徒 250 人

4 ~ 6 の割合、6 段階評価 (1 = 全くそう思わない ~ 6 = 非常に思う)



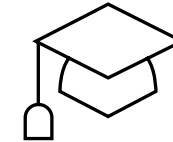
58%

デジタル ライフはリアル ライフと同様に重要である



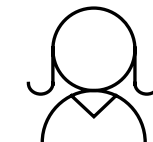
51%

自分にとって重要なオンラインコミュニティに所属している



40%

何でもインターネットで学べる独立した状態が好き



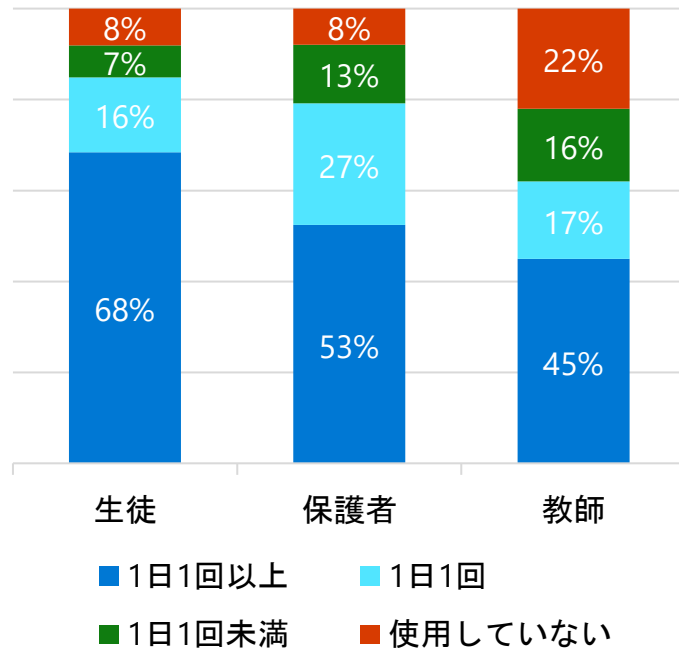
40%

オンラインでは本当の自分を表現することができる

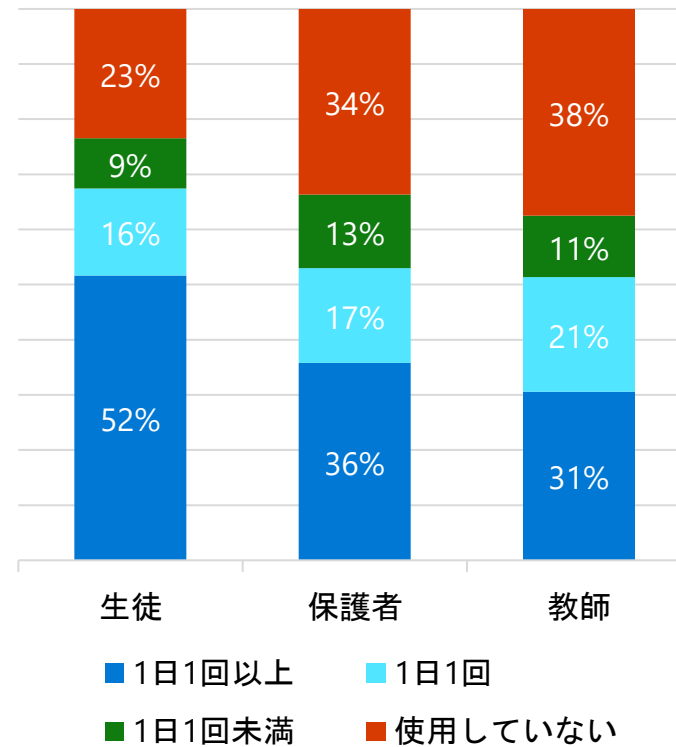


# デジタル活動状況

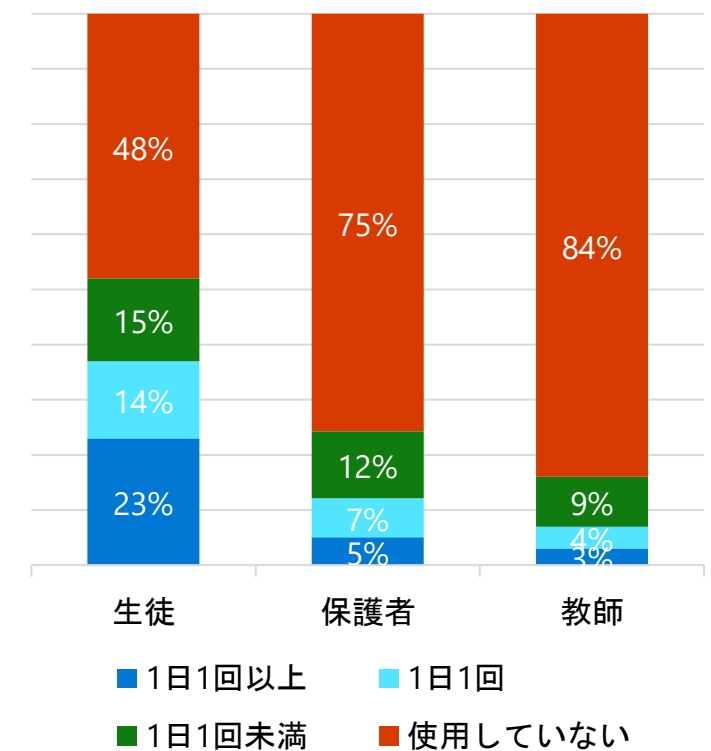
## メッセージ / テキスト送 信アプリ



## SNS



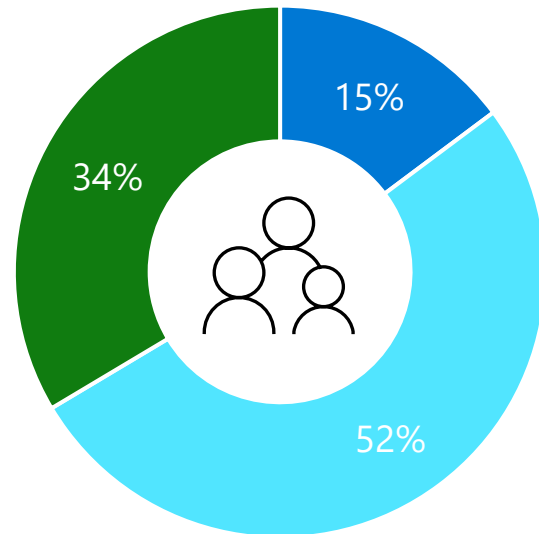
## オンライン ゲーム



# GIGA スクール構想プログラムについて知っている保護者は 15% のみ

保護者

集計ベース: 合計 251 人



■ はい ■ いいえ ■ わからない

調査に参加した保護者の半数が、オンライン学習のためにコンピューターをもう 1 台所有する必要はないと回答

集計ベース: 保護者 251人

自宅には、子供のオンライン学習に対応できるコンピューターが十分にある

51%

49%

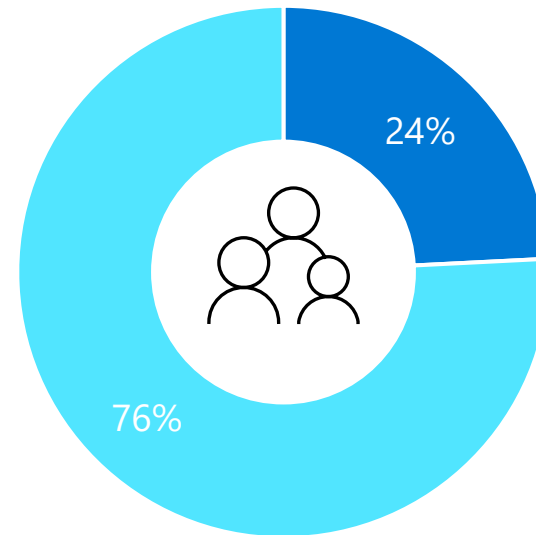
子供のオンライン学習に対応するためにコンピューターがもう 1 台必要である

Q.OL12: GIGA スクール構想についてご存じですか? GIGAとは、Global Innovation Gateway for All (すべての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉) を表します。

Q.OL13: GIGA スクール構想では、すべての生徒にコンピューターと高速インターネットを提供することを目指しています。教育者には、子供にデジタル ツールの使い方やオンライン学習方法を教えるためのトレーニングを提供します。以下の 2 つの説明のうち、貴方の意見に近いのはどちらですか? 完全に同じ意見である必要はありません。

# テレワークをしていると回答した保護者は僅か 24% に留まる

テレワークをしていると回答した保護者の割合  
集計ベース: 保護者 251 人

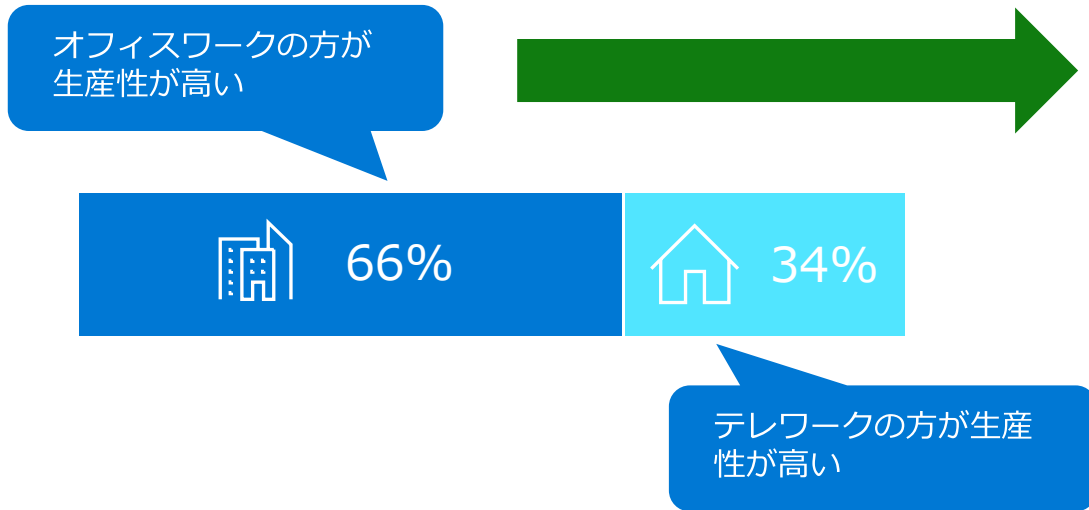


■ テレワークをした    ■ テレワークをしていない

# テレワークを経験した保護者のうち、テレワークの方が生産性が高いと回答した割合は 34% のみ

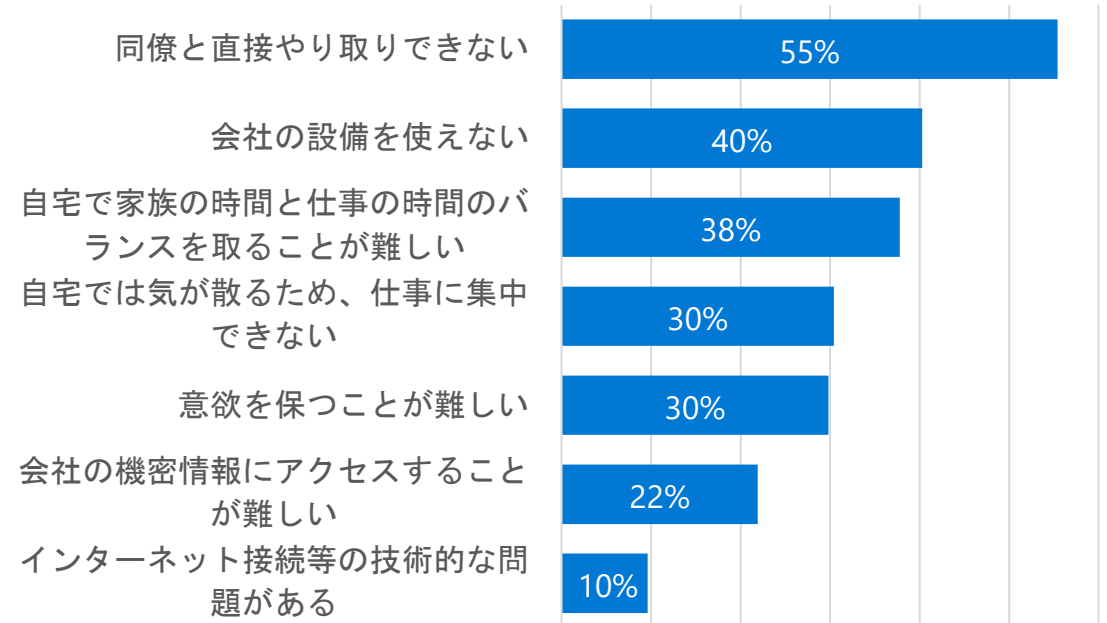
## オフィスワークとテレワークの生産性の比較

集計ベース: テレワークをしている保護者 61 人



## オフィスワークの方が生産性が高い理由

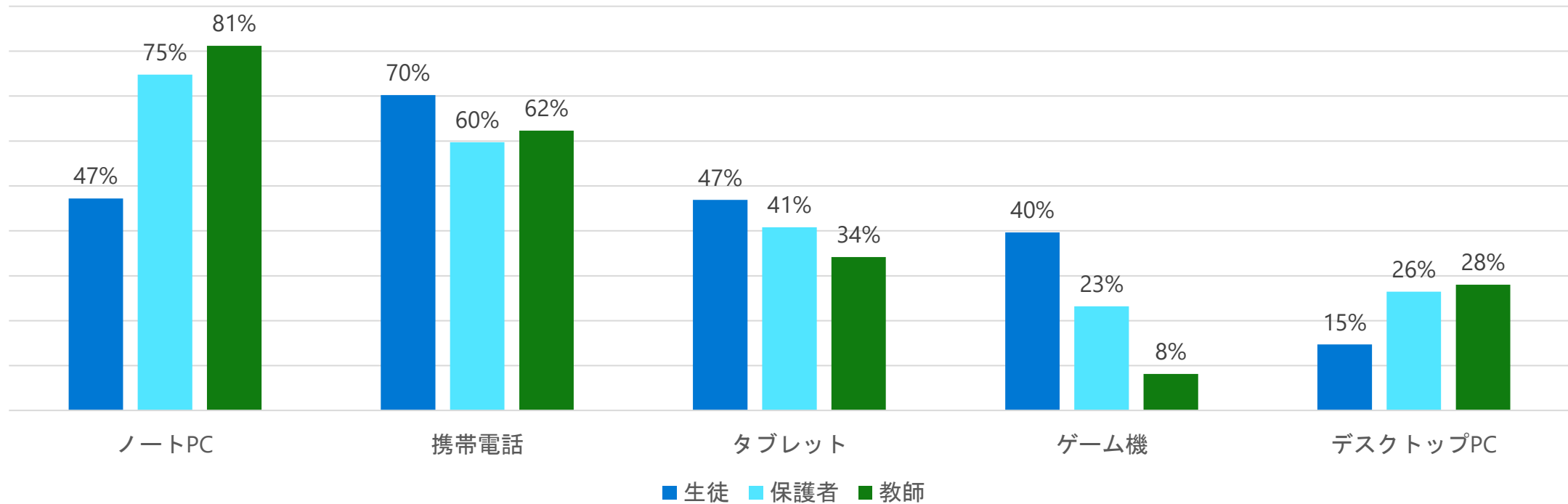
集計ベース: オフィスワークの方が生産性が高いと回答した保護者 40 人



# 自宅での個人的なデジタル機器の使用状況

## 自宅で使用しているデジタル機器

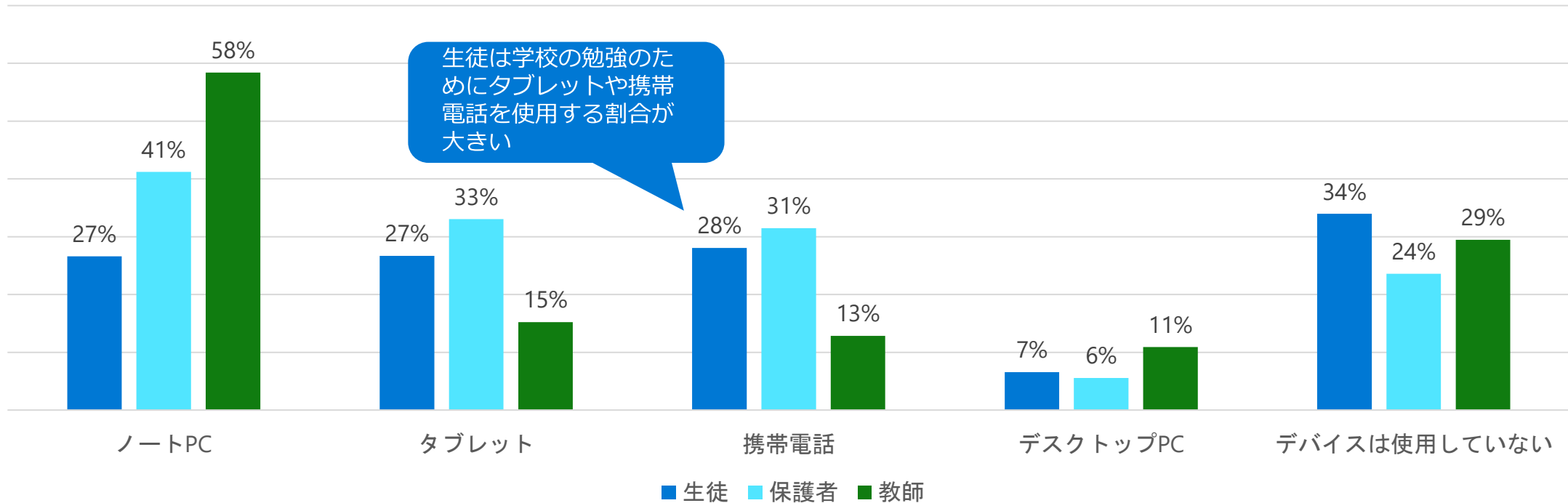
集計ベース: 合計 751 人



# 34% の生徒は自宅で学校の勉強のためにデジタル機器を使用していない

## 自宅学習用としてのデジタル機器の使用

集計ベース: 合計 751 人



注意: 保護者の回答は子供が使用しているデジタル機器に関する回答